国際交流センター・国際部

2019年度　成果報告書

目次

Ⅰ．グローバルパートナーシップ形成

海外訪問

1. 学長・教職員の協定校等訪問 …… ３
2. 日本留学フェア …… ４

海外からのご訪問

1. 海外の大学からのご訪問 …… ６
2. その他の海外機関等からのご訪問 …… １１

OB ネットワーク …… １４

その他の活動 …… １６

Ⅱ．学生交流

海外派遣

1. 交換留学 …… １８
2. 海外研修プログラム …… ２０
3. 海外留学の事前指導およびフォローアップ …… ２４

留学生サポート事業

1. 日本語研修コース …… ３３
2. 語学・留学・異文化理解　さまざまなサポート …… ３９
3. 日本語・日本事情教育 …… ４４
4. 留学生支援・相談・文化交流 …… ５０

Ⅲ．国際化教育

G-フィロス

1. 交流イベント …… ６０
2. Student Assistants (SA)の活動 …… ６２
3. 英語学習・留学アドバイザーによるサポート …… ６２

医学部キャンパスでの取り組み …… ６８

Ⅳ．地域貢献

留学生の地域との交流 …… ７０

小・中・高等学校への留学生派遣 …… ７３

Ⅴ．国際交流関連データ …… ７４

国際交流センター長挨拶

茅　暁陽（まお しゃおやん）
国際交流センター長・国際部長

本報告書では、第3期中期目標・中期計画の達成に向けて、国際交流センターの教員と国際部スタッフが一丸となって取り組んできた一年間の活動内容を、グローバルパートナーシップ形成、学生交流、国際化教育、地域貢献、国際交流関連データの5つのパートに分けて紹介しています。

2019年度の活動で特筆すべきことは、OBネットワークの整備を通じてグローバルパートナーを形成する取り組みです。2019年6月23日にマレーシア連邦の首都クアラルンプールで、留学生OB・OG会を開催しました。本学からは島田眞路学長、熊田伸弘工学域長、茅暁陽国際交流センター長、石井よしみ国際企画課長が出席し、約65名の同窓生とその家族が参加しました。本学を卒業・修了した学生は既に100名を超え、マレーシアに帰国後もさまざまな分野で活躍しています。OB・OG会の後には、計6名のOB・OGが教員として活躍している交流協定校の国立マレーシア・ペルリス大学（UniMAP）を訪問し、学生交流及び共同研究の詳細計画について打合せを行いました。2020年2月5日には、UniMAPのR.BADLISHAH AHMAD学長らご一行を本学に迎え、博士課程工学専攻デュアルディグリープログラム協定に関する覚書を調印し、2020年4月に当該デュアルディグリープログラムを開設する運びとなりました。

2019年度より開始した本学コンピュータ理工学コースと中国・杭州電子科技大学との修士課程デュアルディグリープログラムも2019年10月8日に20名の第1期生を迎え、両大学学長の出席のもと開講式を挙行しました。開講式にあわせ、甲府キャンパス内で記念植樹が行われ、記念碑が建立されました。学生の共同指導を通して、両大学に跨がるAI・IoT分野の国際共同研究の推進が期待されます。

さらに2019年度は、アフリカで開催される日本留学フェアにも初めて参加しました。11月9日にガーナ共和国アクラで開催された日本留学フェアには、本学ブースに52名の学生が留学の相談に訪れました。留学フェアに先立って開催された学術交流ワークショップでは、ガーナ大学をはじめ、アフリカの大学との学術協力について広く意見を交換し、これを機に今後、アフリカ地域とも学術及び学生交流を拡大していく予定です。

こうした取り組みを継続的に実施してこられたのも、学長及び国際交流担当理事の強力なリーダーシップのもとで、国際交流センターの専任・協力教員と国際部国際企画課職員の全員がタッグを組んで献身的に対応してくださったこと、ならびに各学域や附属施設の多くの教職員の皆様から絶大なるご理解・ご支援をいただいてきたお陰です。この場をお借りして改めて心より御礼申し上げる次第です。

I. グローバルパートナーシップ形成

本学の特色あるさまざまな研究分野を通して、新たな海外大学との交流が広がりつつあります。国際交流センター・国際部では、新たな交流締結や海外からの訪問者受け入れを通して、山梨大学の更なるグローバル化に向けて、グローバルパートナーシップの形成を推進しています。

海外訪問

１．学長・教職員の協定校等訪問

海外の交流協定校や、新たな協定締結の可能性があるその他の教育機関等を、学長、国際交流センター長および関係する教職員が訪問し、グローバルパートナーシップの強化・拡大に努めています。2019 年度の海外訪問について、以下にご報告します。

(1)　マレーシア・ペルリス大学とタイ・プリンス・オブ・ソンクラー大学を訪問：2019 年 6 月 25 日（火）～27 日（木）

島田眞路学長、熊田伸弘工学域長、茅暁陽国際交流センター長らが本学の交流協定校であるマレーシア連邦ペルリス大学とタイ王国プリンス・オブ・ソンクラー大学を訪問しました。

ペルリス大学では、本学の卒業生であるラティファ・ムニラ・カマルディン准教授とユザイリ・ビン・アブドゥル・ラヒム講師が活躍されているセンサー研究センターを視察した後、レズワン・カマルディン理事長、バドリシャ・アハマド学長をはじめ、関係者らと共同研究センターの設置や教育プログラムの連携の可能性などについて議論しました。

プリンス・オブ・ソンクラー大学では、ニワット・キープラドゥブ学長への表敬訪問に加え、医学部、附属病院、工学部、マネジメント学部の教育・研究現場を視察し、今後の連携について意見交換を行いました。

現在、ペルリス大学では 5 名、プリンス・オブ・ソンクラー大学では 2 名の本学卒業生が教鞭をとっているほか、教員・学生交流や共同研究が進められています。今後、両大学との更なる連携の強化により、一層の国際交流を推進してまいります。

ペルリス大学役員らとの記念写真

ペルリス大学所属の本学 OB から
研究の説明を受ける島田学長

プリンス・オブ・ソンクラー大学役員
との記念写真

プリンス・オブ・ソンクラー大学附属病院
の視察

(2)　中国・西安医学院・揚州大学・五邑大学・暨南大学を訪問：2019 年 12 月 20 日（金）～26 日（木）

島田眞路学長、中尾篤人医学域長、範江林教授、姚建教授、茅暁陽国際交流センター長及び石井よしみ国際企画課長が、中国の 4 大学を訪問しました。

最初に訪問した西安医学院では楊帆学長、李雪萍副校長らと連携に向けての意向書を交わし、大学間交流協定締結に関する意見交換を行いました。

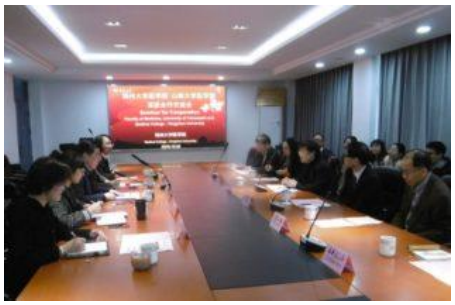
次に、揚州大学を訪問しました。揚州大学医学院と本学医学部は 2016 年に交流協定を締結し、これまで医学部を中心に教員と学生の交流が行われてきました。今回の訪問において、刘巧泉副学長を表敬訪問し、今後、部局間交流協定を大学間に拡大し、交流をさらに強化していくことについて意見交換が行われました。また、関係者らと共同研究センターの設置や教育プログラムの連携の可能性などについても議論を行いました。最後に、本学で短期間学んだ学生から近況報告がありました。

五邑大学では張焜書記、張運華学長、李需康副書記、陳文華大健康院副院長らのご列席の中、大学間交流協定調印式が催されました。その後、学内の研究教育施設を視察し、今後の連携について具体的に意見交換を行いました。

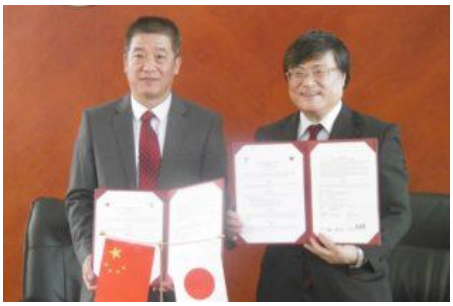
暨南大学では洪岸副学長、王一飛院長と意見交換した後、共同研究意向書を交わしました。

各大学では本学で博士学位を取得した修了生が教鞭をとっており、OB・OG を中心に、これまですでに学生交流や共同研究を進めております。今回の訪問を通して、両大学との関係がさらに強化され、教員と学生の交流、共同研究のさらなる推進が期待できます。

西安医学院と共同研究意向書調印



揚州大学との意見交換



五邑大学との大学間交流協定調印式

暨南大学と共同研究意向書調印

２． 日本留学フェア（ガーナ、インドネシア）

国際交流センター・国際部では、独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）が実施する「日本留学フェア」に毎年参加して、日本の大学への進学を希望する海外の学生たちに山梨大学の PR を行っています。フェアは日本国内と海外各国で行われており、日本国内では東京で開催されるフェアに毎年参加している他、海外では 2019 年度は、ガーナとインドネシア会場に参加しました。以下に、参加について報告します。

（1）ガーナ会場：2019 年 11 月 8 日（金）～9 日（土）

アクラ（アフリカ・ガーナ共和国）において学術交流ワークショップおよび日本留学フェアが開催され、本学から教職員が参加しました。学術交流ワークショップでは、地元大学との学術協力について意見交換し、ガーナ大学関係者と連携について協議しました。また、9 日に開催された日本留学フェアでは、本学ブースに 52 名の学

生が留学の相談に訪れ、専攻、奨学金及び研究内容等について説明しました。今後、アフリカとの学術協力および留学生交流が推進していくことが期待されます。

在ガーナ日本大使を迎えての開会式

ガーナ側大学と日本側大学との学術交流

本学ブースでの留学相談

（2）インドネシア会場：2019 年 11 月 24 日（日）

インドネシア共和国の首都ジャカルタにおいて、日本留学フェアが開催され、本学教職員が参加しました。

約 80 の日本の大学・専門学校等が参加した今回のフェアでは、本学のブースには 150 人以上の日本留学希望者が訪れ、本学や本学の所在地である山梨県や甲府市についての説明を熱心に聞いていました。

また、翌 25 日（月）には、同年 7 月に本学工学部と協定を締結した国立パジャジャラン大学を訪問し、数学・自然科学部の教員および学生と今後の交流に向けた懇談を実施しました。

本学には 11 月 1 日現在、4 名のインドネシアからの留学生が在籍し、勉学・研究に励んでおり、今回のフェアへの参加は、インドネシアにおける本学の広報と優秀な留学生の受け入れに資するよい機会となりました。

日本留学フェアの様子

パジャジャラン大学を訪問

海外からのご訪問

1. 海外の大学からのご訪問

海外の交流協定校や、協定締結を視野に交流している大学からの、山梨大学への訪問についてご報告します。交流協定校からは、学生交流のプログラム担当教職員が本学を訪れ、さらなるプロモーションに向けた打ち合わせなどが行われました。また、協定校以外にも本学の特色ある研究に興味を持つ海外の教育機関は多く、今後の協定締結に向けての訪問等がありました。

（1）フィリピン・イサベラ州立大学と大学間交流協定を締結：2019 年 6 月 13 日（木）

フィリピン共和国イサベラ州立大学のリクマー・アキノ学長及びオーランド・バルデラマ同大水研究開発センター所長が来学し、同大と本学との大学間交流協定の調印式を挙行しました。

アジアモンスーン地域における総合水資源管理の推進を図る「アジア河川流域機関ネットワーク（NARBO）」の活動に深く関わるなど、同センターは水資源・環境等の研究に力を入れており、今後、主に本学国際流域環境研究センターとの連携により、更なる国際的な研究の発展や人材交流ネットワークの拡大が期待されます。

アキノ学長及びバルデラマ所長は、島田眞路学長ら本学役員及び共同研究を実施する石平博国際流域環境研究センター教授らと、今後の学生・研究者交流や共同研究等の推進について意見交換を行いました。

また、調印式後には大村智記念学術館を見学し、2015 年にノーベル医学・生理学賞を受賞した本学卒業生の大村智博士の功績や本学の歴史等に触れました。

締結書を掲げる島田学長（左）
とアキノ学長（右）

意見交換の様子

関係者による記念撮影

（2）中国・浙江大学医学部関係者が来学：2019 年 7 月 31 日（水）

陳智浙江大学医学部衛生政策・病院管理研究センター長、張新躍同センター管理研究支援部門長らご一行が来学されました。

同大医学部と本学医学部は 2016 年 1 月に学部間交流協定を締結しており、学生・教員の交流や共同研究を行っています。ご一行は、武田正之病院長、岩﨑甫副学長、中尾篤人医学域長、榎本信幸第一内科学講座教授、茅暁陽国際交流センター長らと意見交換をした後、医学部附属病院内の施設を視察しました。その後、島田眞路学長を表敬訪問し、これまでの交流内容を振り返り、今後一層の交流推進を確認するなど、有意義な懇談となりました。

島田学長を表敬訪問

今後一層の交流が期待されます

医学部キャンパスにて

武田病院長らと意見交換

（3）マレーシア・スルタンザイナルアビディン大学学長らご一行が来学：2019 年 9 月 10 日（火）

マレーシア連邦スルタンザイナルアビディン大学のハサン・バスリ・ビン・アワンマット・ダハン学長らご一行が来学されました。

ご一行は本学附属病院を訪問し、武田正之病院長、大西洋放射線医学講座教授、姚建医学部国際交流委員長及び茅暁陽国際交流センター長らと意見交換を行った後、附属病院内を視察されました。

その後、ご一行は島田眞路学長を表敬訪問し、両大学間の交流協定について協議し、協定締結に向けて合意書へ署名しました。

同大は、マレーシア国内で医学部を有する七つの国立大学のうちの一つで、2020 年には附属病院を開院する予定です。今後、医学部を中心に研究および学生交流が活発に行われることが期待されます。

握手を交わす島田学長（左）と
ハサン・バスリ学長（右）

武田病院長を訪問したご一行

医学域での意見交換

附属病院の視察

（4）中国・杭州電子科技大学との修士課程デュアルディグリープログラムの開講式を挙行：
2019 年 10 月 8 日（火）

甲府キャンパスにおいて、中国・杭州電子科技大学との修士課程デュアルディグリープログラムの開講式を挙行しました。

本学では、同大と 2008 年に大学間交流協定を締結しており、本学工学部生の海外インターンシップの中国拠

点校として、教員と学生の相互派遣などの交流を続けています。

本プログラムは、双方の教育の国際化と学生指導を通じた共同研究をより一層促進するため、昨年 9 月に本学工学専攻コンピュータ理工学コースと同大計算機学院との連携により設置されました。学生は双方の大学の教員からの指導を受けながら、杭州電子科技大学で 1 年半、本学で 1 年間勉強と研究を進めることにより、両大学で修士学位を取得することが可能となります。

開講式では島田眞路学長と朱泽飞同大学長がそれぞれ式辞を述べ、記念すべき 20 名の第一期生を激励したほか、受講学生を代表し王云超さんが決意表明の言葉を語りました。また、開講式にあわせ、甲府キャンパス内にて記念植樹が行われ、記念碑が建立されました。

式辞を述べる島田学長

式辞を述べる朱学長

決意表明する王さん

両学長による植樹式の様子

両大学役員とプログラム
受講学生による記念撮影

植樹された枝垂れ桜と
建立された記念碑

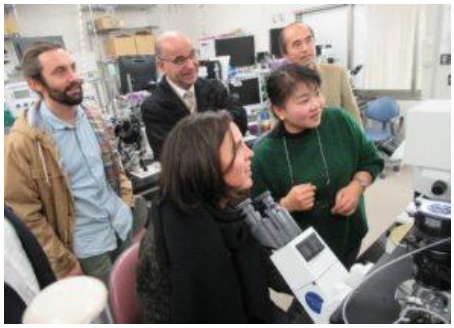
（5）フランス・ポー・エ・デュ・ペイ・ド・ラドゥール大学長ご一行が来学：2019 年 12 月 9 日（月）

Mohamed Amara ポー大学長、Mathilde Monperrus 同助教授、Laurent Lanceleur 同助教授、Benat Delanghe 同講師が島田眞路学長を表敬訪問されました。

同大と本学は 2018 年 4 月に大学間交流協定を締結しており、学生・教員の交流や共同研究を行っています。

ご一行は島田眞路学長ら本学役員と、教員・学生の研究交流等について意見交換した後、大村智記念学術館を見学し、大村博士の功績や本学の歴史に触れました。また、発生工学研究センターや燃料電池ナノ材料研究センター及びワイン科学研究センターを訪れ、本学が誇る最先端研究を視察しました。

島田学長を表敬訪問



発生工学研究センター

燃料電池ナノ材料研究センター

ワイン科学研究センター

（６）マレーシア・ペルリス大学（UniMAP）とデュアルディグリープログラム協定を締結：2020 年 2 月 5 日（水）

2020 年 2 月 5 日（水）、マレーシア・ペルリス大学（UniMAP）の R.Badlishah Ahmad 学長一行が来学し、本学とマレーシア・ペルリス大学（UniMAP）との博士課程デュアルディグリープログラム協定に関する覚書の調印が行われました。

本学では、同大と 2017 年に大学間交流協定を締結しており、工学部生を中心に、教員と学生の相互派遣などの交流を続けています。博士課程デュアルディグリープログラム及び共同研究センター設置などに関する意見交換会では、今後の具体的な実務についての話し合いが行われました。意見交換会の後、ご一行は電気電子工学科及び機械工学科の研究室を視察し、ポテンシャルの高い共同研究テーマについて意見交換を行いました。

調印式では、R.Badlishah Ahmad 学長と島田眞路学長が、今後も交流をより一層促進することを確認しました。その後、ご一行は燃料電池ナノ材料研究センターを訪問しました。

協定締結で交流促進を固く誓い合う
R. Badlishah Ahmad 学長（中央右）と
島田学長（中央左）

調印式後の記念撮影

意見交換会

意見交換会後の集合写真

（７）フランス・モンペリエ農業科学高等教育国際センターの学生ら来学：2020 年 2 月 19 日（水）～20 日（木）

フランス・モンペリエ農業科学高等教育国際センター（SupAgro）の学生・教員など 17 名が来学しました。

本学は 2016 年 3 月、世界 22 カ国・55 機関で構成されるブドウ・ワイン研究の国際ネットワーク「Oenoviti International Network」と連携を結んでおり、今回は、加盟する両機関の学生らが、日本のワイン生産の視察を

兼ねて来学しました。

19 日（水）、一行は山梨県内のワイナリーを見学後、本学ワイン科学研究センターを視察し、本学学生との懇親会ではワインに関する活発な意見交換が行われました。

20 日（木）は、甲府キャンパスにおいて「国際ブドウ・ワインセミナー」を開催し、SupAgro 講師のオーレリー・ローラン氏が「ブドウからワインへ：単一品種のチオール生合成について」、SupAgro 農学者のパトリス・ラルマン氏が「原産地呼称による“テロワール”ワインの文化遺産価値を高める：ブルゴーニュの例」と題してそれぞれ講演を行いました。セミナーには、学生・教職員・全国のブドウ栽培やワイン醸造関係者等約 110 名が参加しました。

ワインで乾杯

懇親会の様子

奥田ワイン科学研究センター長
による尺八披露

島田学長もセミナーで挨拶

講演するローラン氏

講演するラルマン氏

講演の通訳を行う佐藤客員教授

熱心に聴き入る参加者

２．その他の海外機関等からのご訪問

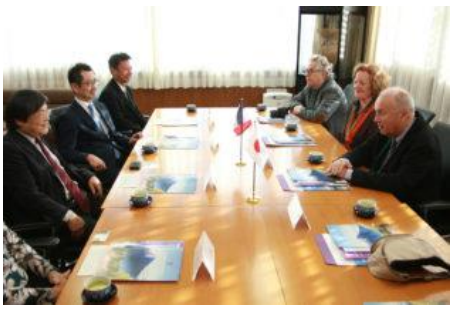
継続的な交流のある教育機関以外にも、海外のさまざまな機関から山梨大学への訪問がありました。これらのうち、国際交流センター・国際部が関わったいくつかの訪問について、以下にご報告します。

（1）フランス・ポー市副市長らご一行が来学：2019 年 4 月 4 日（木）

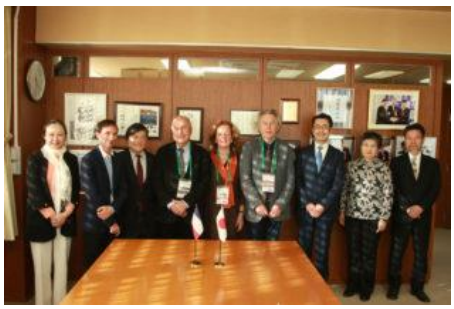
フランス・ポー市のマーク・カバヌ副市長らご一行が来学し、学長室を表敬訪問しました。

フランス南西部に位置するポー市は甲府市の姉妹都市であり、2016 年 2 月に島田眞路学長が同市にあるポー大学を訪問した際、大学間での共同研究や研究者・学生交流の促進についての協議を開始することをモハメド・アマラ同大学長と合意しています。

ご一行は、島田眞路学長、茅暁陽国際交流センター長ら本学役員と教員・学生や研究交流について意見交換した後、大村智記念学術館を見学し、2015 年にノーベル医学・生理学賞を受賞した本学卒業生の大村智博士の功績や本学の歴史等に触れました。



意見交換の様子
右手前：カバヌ 副市長
左手前：島田学長



関係者による記念写真

大村智記念学術館の見学

（2）中国・林涛南京市秦淮区委員会書記長及び金小東日中産学交流推進協議会理事長らご一行が島田学長を表敬訪問：2019 年 6 月 18 日（火）

林涛南京市秦淮区委員会書記長及び金小東日中産学交流推進協議会理事長らご一行が島田眞路学長を表敬訪問しました。

林涛書記長及び金小東理事長らの本学訪問は今年 1 月に続き 2 度目となり、今回は島田眞路学長や熊田伸弘工学域長ら本学役員・教職員と今後の共同研究の推進などについて意見交換しました。

ご一行はその後、本学燃料電池ナノ材料研究センターを訪問し、世界トップレベルの先端設備や本学で行われ

ている研究などを視察しました。

意見交換の様子

集合写真

（3）アンナ・ポラック・ペトリッチ スロベニア共和国駐日特命全権大使らご一行が来学：2019 年 11 月 15 日（金）

アンナ・ポラック・ペトリッチ スロベニア共和国駐日特命全権大使及びデヤン・ツェルネク リュブリアナ副市長、マヤ・パィエック リュブリアナ大学教授が本学甲府キャンパスに来学しました。

本学とスロベニア共和国・リュブリアナ大学は 2017 年 9 月に大学間交流協定を、2018 年 6 月に学生交流協定を結んでおり、教育研究の交流が行われています。

ご一行はその後、本学燃料電池ナノ材料研究センターの世界トップレベルの先端設備を視察されたほか、大村智記念学術館を見学し、ノーベル医学・生理学賞を受賞した本学卒業生の大村智博士の功績や本学の歴史等に触れました。

意見交換の様子

大村智記念学術館を見学

（4）中東・北アフリカ諸国の大使らが燃料電池ナノ材料研究センターを視察：2020 年 1 月 29 日（水）

中東及び北アフリカの計 10 の国と地域の駐日大使らご一行が燃料電池ナノ材料研究センターを視察しました。これは、東京オリンピック・パラリンピックの開催を機に、海外に山梨県を PR する事業の一環として企画されたものです。

当日は早川正幸理事・副学長のあいさつの後、飯山明裕センター長が、本学が世界に誇る最先端の燃料電池研究を紹介したほか、施設内を案内しました。大使らは飯山センター長・センター教員と活発な質疑を交わし、留学生の山梨県への派遣について意欲を示すなど有意義な視察となりました。

研究紹介する飯山センター長

活発な質疑が交わされました

センター内を視察するご一行

（5）14 の国と地域の駐日大使らが燃料電池ナノ材料研究センターを視察：2020 年 2 月 14 日（金）

アフリカ・中東・中南米の計 14 の国と地域の駐日大使らご一行が燃料電池ナノ材料研究センターを視察しました。

これは、東京オリンピック・パラリンピックの開催を機に、海外に山梨県を PR する事業の一環として企画されたものです。

当日は島田眞路学長のあいさつの後、飯山明裕センター長が、本学が世界に誇る最先端の燃料電池研究を紹介したほか、施設内を案内しました。大使らは飯山センター長・センター教員と活発な質疑を交わし、有力な次世代エネルギーである燃料電池の研究に興味を示すなど有意義な視察となりました。

挨拶する島田学長

研究紹介する飯山センター長

活発な質疑が交わされました

センター内を視察するご一行

OBネットワーク

国際交流センターでは、本学を卒業した留学生とのネットワーク形成に向け、留学生同窓会の整備を進めています。

すでに同窓会に登録している卒業生に対しては、山梨大学とのつながりを維持してもらえるよう、大学広報誌である『Vine』電子版や、年末年始の挨拶状を E-mail で送信すると同時に、国際交流センターウェブサイトにも、E-mail と同様の内容で卒業生へのメッセージを掲載するなどしています。このような海外在住の本学出身留学生とのネットワークを、本学の広報活動、海外での優秀な留学生の獲得に活用したいと考えています。

同窓生宛グリーティングカード

大学広報誌『Vine』電子版　https://www.yamanashi.ac.jp/about/281
国際交流センターウェブサイト　https://www.ciee.yamanashi.ac.jp/

マレーシアで留学生 OB・OG 会を開催：2019 年 6 月 23 日（日）

2019 年 6 月 23 日（日）、マレーシアの首都クアラルンプールにて、本学主催の留学生 OB・OG 会を開催しました。

本学からは島田眞路学長、熊田伸弘工学域長、茅暁陽国際交流センター長らが出席し、約 65 名の同窓生とその家族が参加しました。

会では、島田眞路学長、アフィフ・ビン・アミール マレーシア本学卒業生の会会長の開会挨拶に続き、参加者による自己紹介や近況報告が行われ、久々の再開となる仲間との思い出話に花が咲き、会場は大いに盛り上がりました。

現在、本学には 24 名（本年度 5 月 1 日現在）のマレーシア出身の留学生が在籍し、日々勉学・研究に勤しんでいます。本学を卒業・修了した学生はすでに 100 名を超え、マレーシアに帰国後もさまざまな分野で活躍しています。

本学は第 3 期中期目標・中期計画において、「アジアをはじめとする諸外国から優秀な留学生がより多く集い、

文化や言語、宗教の違いを越えて交流や協働し、国際的な環境で勉学できるキャンパスを整備する」ことを目標に掲げ、留学生 OB・OG ネットワークの整備を通して、入試広報活動の強化、海外大学との共同研究及び学生の国際化教育の推進を進めています。

参加者による記念写真

その他の活動

フジ国際語学院にて進学説明会を開催：2019 年 8 月 27 日（火）

2019 年 8 月 27 日（火）、国際交流センター・国際部教職員はフジ国際語学院新宿校を訪問し、進学説明会を開催しました。フジ国際語学院では、多くの優秀な外国人留学生が、大学・大学院への進学を目指して日本語を勉強しています。

説明会には教職員 3 名が赴き、本学の教育、研究上の特色等に関する最新の情報、甲府市の住環境を紹介し、地方の大学で学ぶメリットなど山梨大学の魅力をアピールしました。

説明会には理系クラスの学生 40 名、大学院入学希望者 5 名が参加し本学教員の説明に熱心に耳を傾けていました。さらに大学院希望者向けの説明会では、参加学生が希望する専攻を聞き取り、専攻に合った本学の研究者の検索方法を指導するなど、双方向型の大変有意義な説明会となりました。

国際交流センター・国際部では、国内外の日本語学校や海外の大学などへ出向き、優秀な留学生のリクルート活動を行っています。

学部向け説明会の様子

大学院向け説明会の様子

甲府市の説明

II. 学生交流

さまざまな分野で国際的な視野を持って活躍する人材を育成するため、日本人学生の海外派遣や、各国留学生との交流事業に力を入れています。日本人学生の海外留学や海外インターンシップへの関心は年々高まっており、派遣人数も増加傾向にあります。
また、海外派遣だけでなく、留学生受け入れ数のさらなる増加をめざし、学生訪問団の受け入れや、在籍する留学生のサポート事業にも力を注いでいます。

海外派遣

1.　交換留学

2019 年度の交換留学派遣では、米国のイースタン・ケンタッキー大学に 1 名、スロベニアのリュブリャナ大学に 1 名、英国のオックスフォード・ブルックス大学に 1 名、ドイツのドレスデン工科大学に 1 名の、計 4 名を派遣しました。期間は大学や選択するコースによって異なり、それぞれ約 9～11 カ月間となっています。交換留学生は、現地大学での語学授業以外に学部授業にも参加することになるため、募集時点において各留学先の大学から要求されるレベルの英語力に達している必要があります。派遣が決まった学生たちは危機管理教育を含めた事前指導のほかに、自主的な英語学習や国際交流センターの英語学習支援等を利用し熱心に英語学習に取り組み、十分な事前準備をして出発しています。交換留学では、山梨大学への通常の授業料は納める必要がありますが、留学先大学への授業料、検定料及び入学料の支払は免除されています。留学先で取得した単位は、各学域等においての審査の上、学部学生は 60 単位、大学院学生は 10 単位を超えない範囲内で、山梨大学の単位に振り替えることもできます。

交換留学プログラムは、派遣学生たちにとって、各々のコミュニケーション能力の向上や専門分野の理解を深めるだけでなく、異文化に対する知見とグローバルに活躍する人材としての国際的感覚を磨く経験となっています。ここで、米国・イースタン・ケンタッキー大学（EKU）への留学について紹介します。

米国・イースタン・ケンタッキー大学（EKU）派遣　日程：2019 年 8 月～2020 年 5 月（日本発着日）

EKU に派遣された学生は 2019 年 8 月から 2020 年 5 月までの 9 カ月間のコースで学んでいます。

現地の学生たちと同様の科目を履修・受講することになるため、派遣時点においてある程度の英語力を備えていても、やはり最初のうちは授業についていくことに苦労があるようですが、一つ一つのこととポジティブに向き合い、充実した日々を送っている様子がマンスリーレポート※からうかがえます。

EKU 職員とアメフト観戦

現地学生との交流

短期研修時のホストファミリーとの再会

※マンスリーレポート

交換留学中の学生には、マンスリーレポートの提出を義務付けています。これは、本人の留学生活のふり返りのためでもあり、危機管理上、大学側が留学中の学生の状況を確認するためのものでもあります。レポートの内容によってサポートが必要と感じられる場合には、交換留学の担当教員や国際企画課職員が学生本人や留学先大学職員とコンタクトを取り、問題の解決にあたっています。

〈マンスリーレポート実例（2019 年度イースタン・ケンタッキー派遣学生・2019 年 8 月分）〉

EKU 短期留学マンスリーレポート 2019 年 8 月

今月の到達目標

会話中でわからないことがあったら聞き流さないで、その場で聞き直す。

目標達成の状況

昨年における語学研修に比べるとわからないことがあったら聞き直すことはだいぶできるようになったが、理解した気になって聞き流してしまい、後でわかってないと気づくことが多い。

今月一番印象に残っていること

夜中に空港に着いたが誰も迎えに来てくれなかったこと(その後、友人に連絡したら来てくれました)

勉学面

毎回、授業は録音して授業後に聞き直せるようにしている。全てではなく、必要に応じて聞き直すので効率よく復習できていると感じている。また、2 回目の授業の課題で既に徹夜をしたほどの大変さであったので今後の授業にしっかりついていけるか不安である。特に英語の授業では、エッセイなどを書くのでついて行くのが難しい。授業内で友人を積極的に作り、授業の理解を深めていきたい。

課外面

午前中に授業を固めているので午後は基本的に授業を入れていない。これによって、勉強の時間だけでなく、様々なイベントに行けるようにしてある。ジムに行ったり、現地でできた友人とイベントに参加したりと充実している。

生活面

最初の食事はサブウェイだったが、頼み方すら知らなかったので商品一つ頼む事でも苦労した。現在は生活が安定して来たので自炊をして、低脂肪な食事になるように心がけている。食材の買い出しは、休日にしかウォルマートへ行くバスが出ていないので週に一度行く。そのため、一度にする買い物の量が多い。

平日は 7 時前後に起床し、10 時の授業に余裕を持って行くことができるように行動している。平日のうち 2 日間は 8 時から授業があるので気をつけている。

ルームメイトは非常に親切でいつも助けてもらっている。

英語力や英語によるコミュニケーション

ルームメイトはほとんど外出していてさらには平日も家に帰って寝ることが多いため十分なコミュニケーションが取れていない。そのため、スピーキングとして英語に触れる時間が確保できていない。

到着した時に比べたら少しずつ英語が話すことができるようになっていると感じた（気のせい？）長めの一言を言うことがまだ上手くできず、突っかかることが非常に多い。

良かった点

わずか 3 週間程度で 20～30 人程度の知り合いができたのは今後の生活において非常に重要な支えとなるので評価できる点である。ただし、現地の学生というよりは留学生の友人の方が多い。

反省点、今後への改善点

休日はルームメイトが実家に帰ってしまうので予定がないと英語を話す機会がなく、日本語にどっぷり浸かってしまうので、今後はこれを減らすべく、意識してニュースを英語で読んだりして、英語に触れる時間を増やしていきたい。

EKU、または山梨大学への要望があればお書きください。

特になし

2. 海外研修プログラム

本学のプログラムとして、交換留学のほか、夏季・春季休暇中の短期語学・文化研修と、短期語学・文化研修に企業や学校、地方自治体でのジョブ・シャドイング（インターンシップ）が加わった海外研修を行っています。本学が提供するプログラムのほか、海外の交流協定校が提供する短期プログラムにも本学学生が参加しています。

（1） 海外研修プログラム説明会

夏季海外研修プログラム参加者募集期間（4 月～5 月）及び、春季海外研修プログラム参加者募集期間（9 月～10 月）に、国際交流センター教員や前年度のプログラム参加学生による、各プログラムの説明会を実施しました。また、より多くの学生に留学に興味をもってもらうため、説明会のみならず、昼休みの時間帯に甲府キャンパス図書館にて個別相談会も行いました。

説明会の様子

前年度参加者による体験談

（2） 夏季海外研修プログラム

2019 年度の夏季海外研修プログラムは、タイのプリンス・オブ・ソンクラー大学及び米国のケンタッキー州に位置するケンタッキー大学、アイオワ州に位置するグランド・ビュー大学の 3 つの協定校への派遣を実施しました。それぞれのプログラムについて以下にご報告します。

① タイ王国　プリンス・オブ・ソンクラー大学　語学・文化研修

日程：2019 年 8 月 18 日（日）～9 月 1 日（日）（日本発着日）

本プログラムでは、山梨大学が交流協定を締結しているタイ王国 Prince of Songkla University（プリンス・オブ・ソンクラー大学）ハートヤイキャンパスにて“Authentic Thai Camp”というプログラムでタイの文化、言語、及び伝統について学びます。本プログラムには、9 名の学生が参加しました。

2 週間の研修では、世界各国からの参加者と共に、タイ語、タイ文化（タイ舞踊、タイボクシング、伝統医学、タイ料理、タイの歴史、タイの環境や生活など）の授業に参加しました。また、文化交流として、現地の PSU 学生との交流やクラビなどへの研修旅行も組み込まれており、タイの文化体験を通して、タイについて深く学びました。参加学生からは、「さまざまな国からの参加学生と一緒に 2 週間過ごすことにより、異文化を理解することができ、自分の価値観や考え方の幅が大きくなった」、「留学中に英語を通してのコミュニケーションがほとんどであったため何が何でも話さなくてはならない条件下に自身を置くことによって、伝えようとする能力が向上した。この留学を通して、多少文法が違っていても単語を知らなくても、伝えようとすることが大切であると学び、外国語を用いてのコミュニケーションが楽しいと思えた良い経験だった」という感想がありました。

現地学生との交流

タイ文化体験

エクスカーション

② 米国　ケンタッキー大学　英語・文化研修＋海外インターンシップ：

日程：2019 年 8 月 18 日（日）～9 月 21 日（土）（日本発着日）

本プログラムは、ケンタッキー州内の最大規模の州立大学 University of Kentucky（ケンタッキー大学）の Center for English as a Second Language（CESL）においての英語・文化研修と、現地日系企業または教育機関におけるジョブ・シャドイングを行うものです。今年度は、13 名の学生を派遣しました。

語学・文化研修は 4 週間となっており、ジョブ・シャドイングは語学・文化研修期間中と研修終了後、合わせて計 5 日間、教育系は現地の学校にて、工学系は現地の日系企業 4 社にて行われました。参加した学生からは、「現地の学校でジョブ・シャドイングをすることで、日本の教育と、米国の教育の違いを深く理解することができ、学んだことを今後の教育実習に取り入れたいと思った」、「ジョブ・シャドイングを通して日本とアメリカの仕事に対する考え方の違いや、自分の専攻分野がどのように応用されているのかを学ぶことができた」などの感想が寄せられました。

ジョブ・シャドイング先「Murakami」

ジョブ・シャドイングの様子

文化体験

③ 米国　グランド・ビュー大学　英語・文化研修＋海外インターンシップ

日程：2019 年 8 月 25 日（日）～9 月 22 日（日）（日本発着日）

本プログラムは、山梨大学が交流協定を締結している米国アイオワ州にある Grand View University（グランド・ビュー大学）における英語・文化研修と、現地の企業においてジョブ・シャドイングに参加するというプログラムです。本プログラムでは、11 名の学生を派遣しました。

3 週間の語学・文化研修では、Intensive English Classes（山梨大学特設クラス）において週 20 時間の英語レッスンを受講し、午後はデモイン市周辺へのショート・ツアー等を通して、学んだ英語を実際に使いながら、アメリカ文化を体験することができました。最終週のジョブ・シャドイングでは、それぞれの専門に合った現地の企業・機関にて業務内容を身近で見学や体験することができ、とても貴重な経験となりました。

参加した学生からは、「アメリカの食文化や人々の考え方、宗教観などを直に感じることができた。それと同時に、日本の良いところや悪いところを知ることにもつながり、この経験は将来について考える上で有意義なものとなった」「アイオワの人との交流を通して、自分が幸せに生きることについて、日本の

常識とは全く違った角度から考え、触れることができた」との感想が寄せられました。

グランド・ビュー大学での
授業の様子

現地学生との交流

ジョブ・シャドイングの様子

（3） 春季海外研修プログラム

春季海外研修プログラムは、米国のノーザン・アイオワ大学、英国のレスター大学、カナダのブリティッシュ・コロンビア大学の計 3 大学への派遣となりました。それぞれのプログラムについて以下にご報告します。

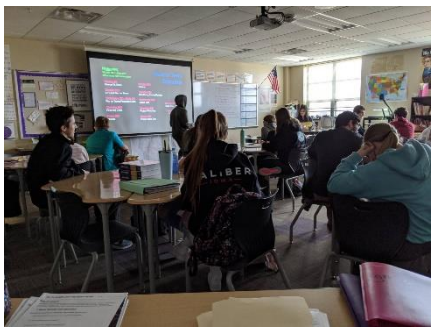
① 米国　ノーザン・アイオワ大学　英語・文化研修＋海外インターンシップ

日程：2020 年 2 月 16 日（日）～3 月 15 日(日)（日本発着）

本プログラムでは、山梨大学国際交流センターが交流協定を締結している米国アイオワ州シーダーフォールズにあるUniversity of Northern Iowa（ノーザン・アイオワ大学）のThe Culture and Intensive English Program (CIEP)における英語研修及び同大学での授業やワークショップへの参加に加え、アイオワ州での文化体験と各学生の専門分野に合ったジョブ・シャドイング に参加します。今年度は4名の学生を派遣しました。

CIEP での 3 週間の語学・文化研修では、習熟度に合わせて週 20～22 時間の英語レッスンを受講しました。また、ホームビジットや周辺地域への小旅行、現地学生とのイベントを通して、学んだ英語を実際に使いながら、アメリカ文化を体験することができました。学生からは、「日本とアメリカの文化の違いのみならず、CIEP で学んでいる現地学生との交流を通して、他の国との文化の違いについても知り、体験できる貴重な機会となった」、「研修参加前は、英語への苦手意識があったが、ジョブ・シャドイングや、ホームステイにて多くの現地の方々と関わることを通して、ジェスチャーや、簡単な単語を使う等工夫して伝えることが大切だと学んだ。物怖じせず話せるようになった」という感想がありました。

現地学生との交流



教育ジョブ・シャドイングの様子

ジョブ・シャドイングの様子

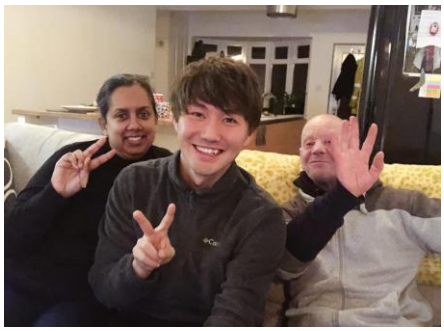
② 英国　レスター大学　英語・文化研修

日程：2020 年 2 月 9 日（日）～3 月 8 日（日）（日本発着日）

本プログラムは、山梨大学が交流協定を締結している英国イングランド中部レスター市にある University of Leicester（レスター大学）の English Language Teaching Unit（ELTU)において、英語力とコミュニケーション・スキルの向上を目的とした学習のほか、地域の人々との交流、同大学の学生と意見交換などの交流、近くの学校訪問等の英国文化体験を行います。全日程ホームステイで実施され、英国での家庭生活を体験することができます。また、ロンドン、ストラトフォード、オックスフォード等への日帰り旅行も研修に含まれます。今年度は 12 名の学生を派遣しました。

参加学生からは、「日本にいては経験ができないような多くの貴重な経験をすることができた」、「現地の方の考え方と自分の考え方との違いを実感し、この留学を通して物事に対する視野が広がったと感じている」「イギリスでの生活を体験し、文化を知り、自分が生活している日本と比較することができ、日本の豊かさを痛感した。当たり前の生活に感謝していきたいと思えた」などの感想が寄せられました。

授業の様子



ホストファミリーとの交流

日帰り旅行

③　カナダ　ブリティッシュ・コロンビア大学　英語・文化研修

日程：2020 年 2 月 23 日（日）～3 月 22 日（日）（日本発着日）

本プログラムは、カナダ・ブリティッシュコロンビア州にある The University of British Columbia（ブリティッシュ・コロンビア大学）キャンパスにある English Language Institute(ELI)で開講される「English for the Global Citizen」というコースに参加するものとなっています。今年度は 12 名の学生を派遣しました。

1 週間の授業時間数 26.5 時間のこのコースは、話す力を鍛え、流ちょうな英語を習得することを目指すものです。滞在先はカナダ人家庭でのホームステイとなっており、Cultural Assistant(CA)という現地学生のサポートもつくため、現地の人々とのコミュニケーションを通して、短期集中的に英語力の向上が期待できるプログラムとなっています。参加学生の中では、「人種、国籍、民族などが混在するカナダの環境を通して、多様性が共存する実態を学ぶことができた」という学生が多く、「授業はディスカッション形式が多かったおかげで、コミュニケーション能力も上がった」との感想が多く寄せられました。

授業担当教員と

ホストファミリーとの交流

クラスメイトとの交流

④ 中国　四川大学国際交流合宿（工学部/工学専攻学生対象）： 2019 年 6 月 29 日（土）～7 月 9 日（火）

本学工学部コンピュータ理工学科及び情報メカトロニクス工学科の学生が、交流協定校である四川大学（中国・四川省成都市）で開催された国際交流プログラム「2019 University Immersion Program」に参加しました。

同プログラムには 30 以上の国・地域から数百名の大学生が参加し、グローバルな視点を育むための多種多様な交流活動を体験します。この内、2019 年 6 月 29 日（土）～7 月 9 日（火）まで開催された同大ソフトウェアエンジニアリング学部主催の合宿プログラム「Sparks & Sprout」に本学も招待され、学部生及び大学院生 17 名が参加しました。

合宿プログラムでは、ソフトウェア開発プロジェクトのプレゼンテーション、最先端の研究者による計算機科学に関する英語での集中講義、同大歴史博物館の見学、中国の文化・歴史の体験交流など、多彩な活動が実施されました。

今回の合宿では、協定校との連携強化とともに、グローバル人材育成に向けて、学生は異文化に触れるだけでなく、国際的な舞台におけるコミュニケーション能力とチームワーク能力の形成に努めました。

Sparks & Sprout 開幕式

開幕式での本学代表学生挨拶

四川大学の学生との交流

山梨大学紹介プレゼンテーション

ソフトウェア開発プロジェクト報告会

四川料理体験

3. 海外留学の事前指導およびフォローアップ

本学のプログラムで留学する学生に対しては、交換留学及び海外研修プログラム共に、事前指導や帰国報告会などのフォローアップを行っています。インターンシップが含まれる研修に参加する学生に対する事前指導のひとつとして、インターンシップマナー講座も開講しています。以下に、これらの取り組みについて報告します。

（1） 2019 年度　交換留学・海外研修プログラム帰国報告会

この報告会への出席・発表は、交換留学・海外研修プログラム共に、本学の交流協定校へ留学をした学生すべてに課しているものです。発表を行う学生は各々に準備したスライド資料を用いて、研修の様子、成果などを報告します。2019 年度は、1 回目を 6 月 11 日（火）に、2 回目を 11 月 25 日（月）に開催しました。

1 回目には、2018 年度春休みに 2～5 週間の春季海外研修プログラム（米国 ノーザンアイオワ大学英語・文化研修、英国 レスター大学英語・文化研修、カナダ ブリティッシュ・コロンビア大学英語・文化研修及び中国 杭州電子科技大学中国語・文化研修＋海外インターンシップ）に参加した、計 40 名の学生がそれぞれの留学・研修成果について報告しました。

2 回目には、夏季海外研修に参加した学生 33 名（ケンタッキー大学 13 名、グランド・ビュー大学 11 名、プリンス・オブ・ソンクラー大学 9 名）がそれぞれの留学・研修成果を発表しました。

これら報告会は、留学した学生に対して、自身の経験を振り返り、留学・研修の経験が学習意欲やキャリア形成に及ぼした影響を再確認することを期待するとともに、これから留学を考えている学生に対する啓発も兼ねています。実際に、留学を経験した学生たちからの留学先での授業、文化、生活そして職業体験などの報告は、これから留学に臨もうという学生の疑問や不安を解消し、留学への意識を高める良い機会となっています。

村松国際交流担当理事ご挨拶

海外研修プログラム参加学生の発表

オックスフォード・ブルックス大学
交換留学派遣学生の発表

（2） 海外インターンシップマナー講座

このマナー講座は主に、インターンシップ研修に参加する学生の事前指導の一環として開講しています。2019 年度は 7 月 16 日（火）に豊田鉄工株式会社の柴崎康昭氏を、1 月 14 日（火）にテルモ株式会社の仲田恒夫氏を講師としてお招きして、2 回開講しました。豊田鉄工株式会社は、ケンタッキー大学英語・文化研修＋海外インターンシッププログラムにおいて、テルモ株式会社は杭州電子科技大学中国語・文化研修＋海外インターンシッププログラムにおいて、それぞれインターンシップ受け入れ先となっています。実際に海外勤務を経験された講師による講義は、学生のモティベーションの向上を促すとともに、インターンシップに臨む実際的な準備に非常に役立ったと、毎回好評を得ています。

講師の仲田氏（テルモ株式会社）

講師の話に熱心に聞き入る学生たち

（3） 海外研修プログラム参加学生に対するアンケート

海外研修プログラムに参加する学生を対象に、留学前・留学後のアンケート調査を行っています。異文化交流や語学学習、インターンシップ等の留学体験を通じて学生にどのような変化があるのかを測ると同時に、参加者の声を聞くことによって、次年度以降の海外研修プログラムの充実を図っています。

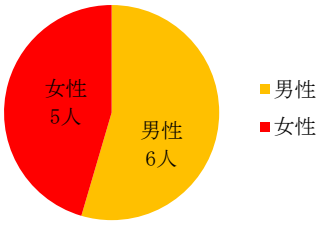
本報告書では、以下 3 つのプログラム参加学生に対するアンケート結果を紹介します。

①2019 年度米国 グランド・ビュー大学英語・文化研修＋海外インターンシッププログラム
②2019 年度英国 レスター大学英語・文化研修プログラム
③2019 年度カナダ ブリティッシュ・コロンビア大学英語・文化研修プログラム

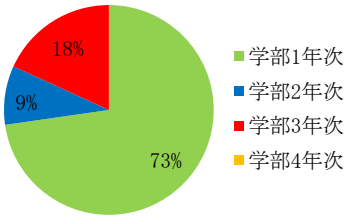
① 2019 年度グランド･ビュー大学英語･文化研修+海外インターンシッププログラム アンケート結果

＜参加者内訳＞

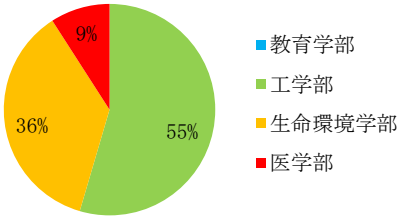
参加者内訳



参加者学年

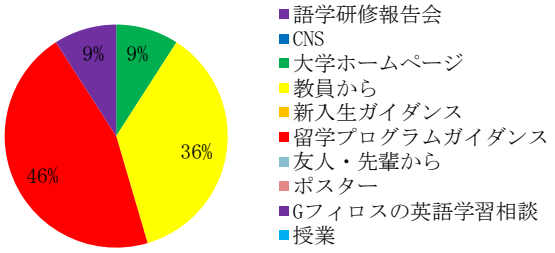


参加者所属学部

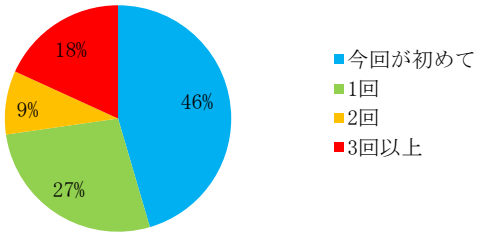


＜各項目回答＞

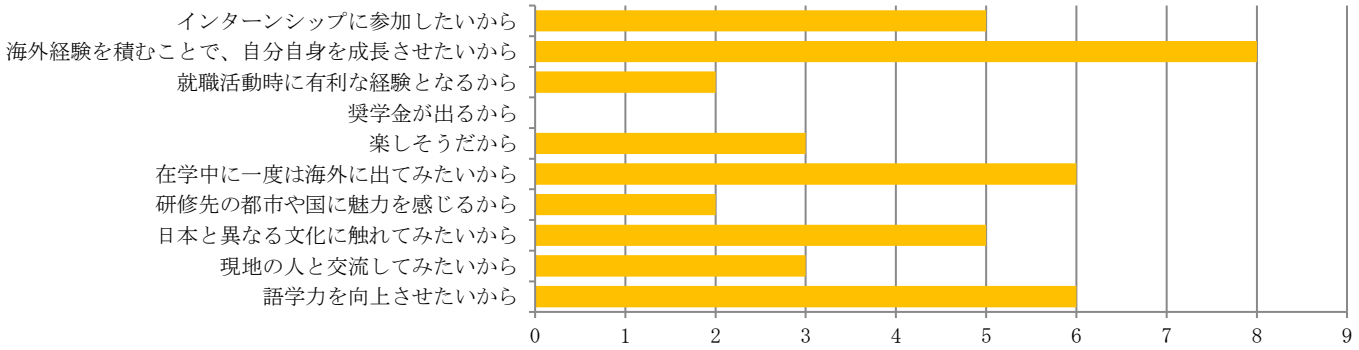
この語学研修を何で知りましたか？



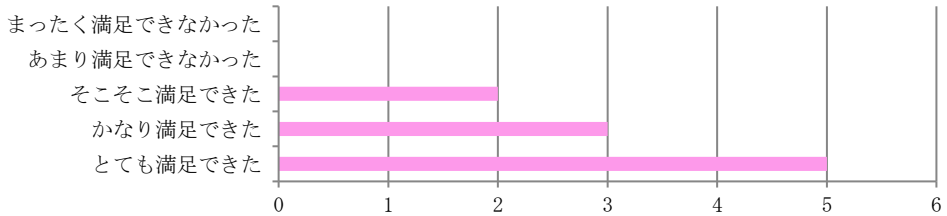
これまでに海外に行ったことはありますか？



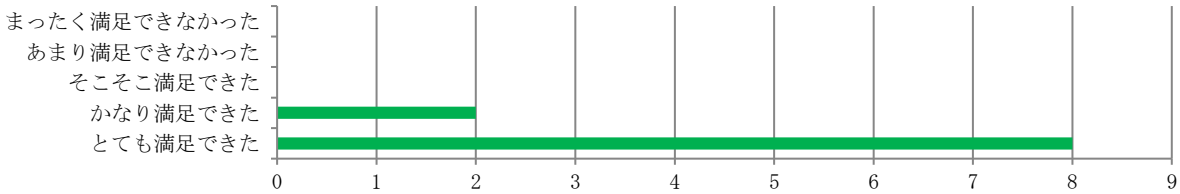
なぜ本研修に参加しようと思いましたか?（複数回答可）



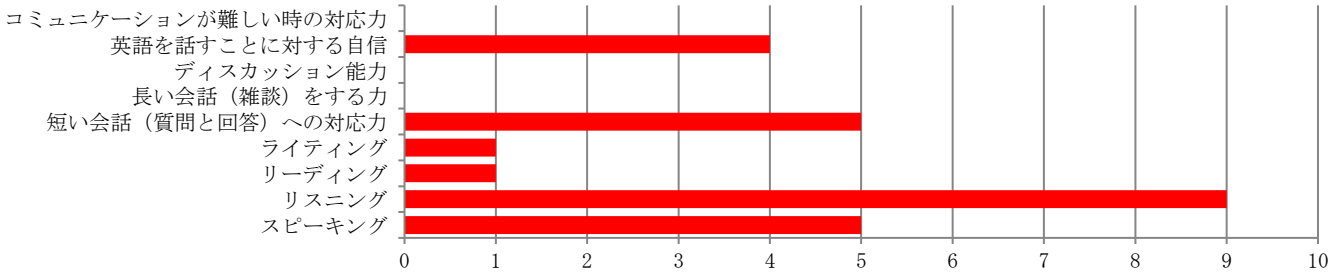
研修プログラムは満足できましたか？



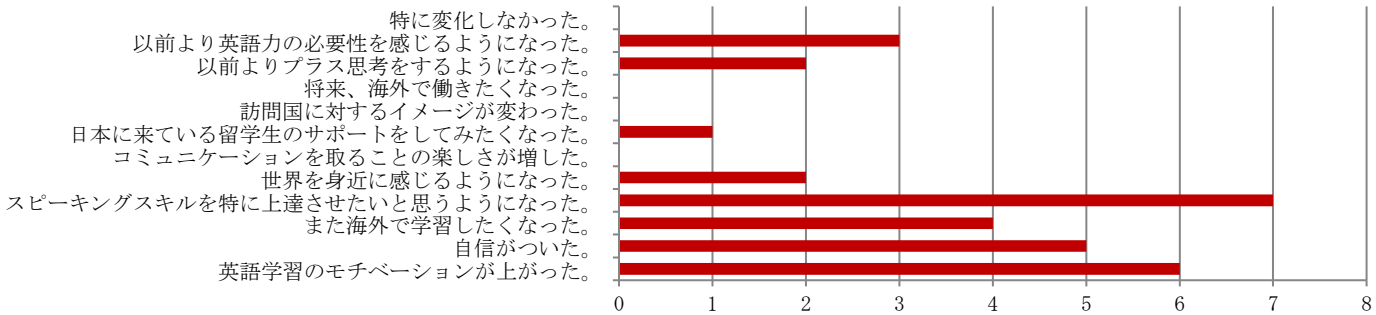
インターンシップは満足できましたか？



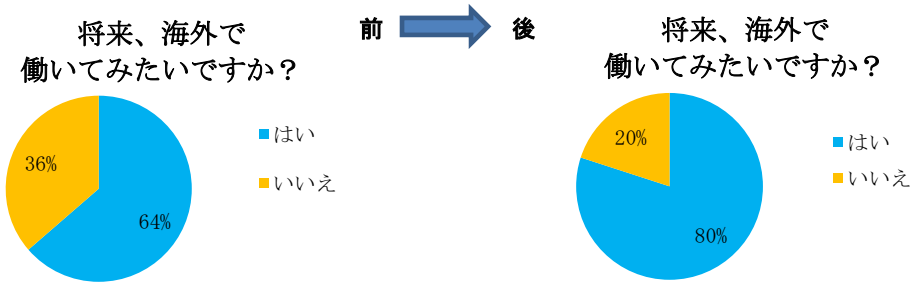
この研修で英語力のどのようなスキルが特に上達したと思いますか？（複数回答可）

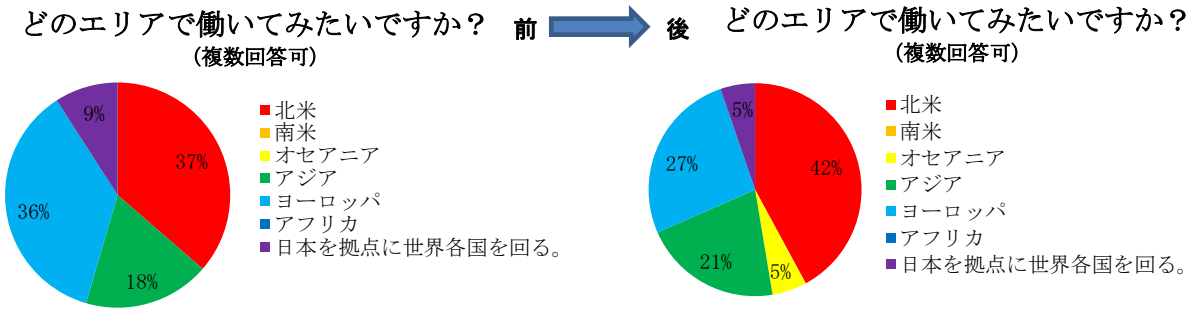


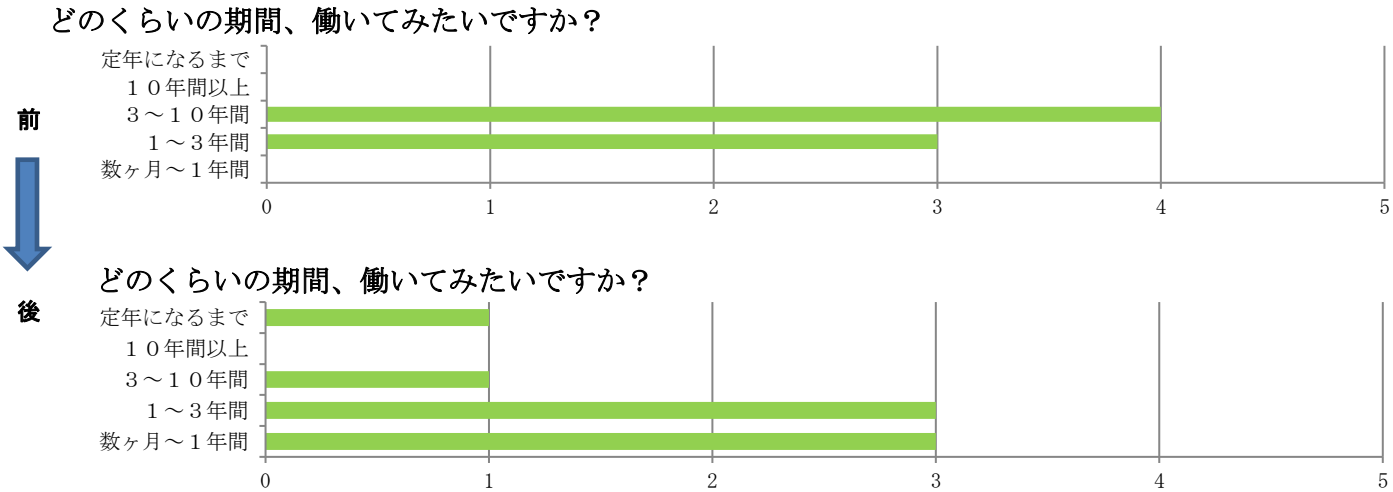
この研修によって、あなた自身は何か変化しましたか？（複数回答可）



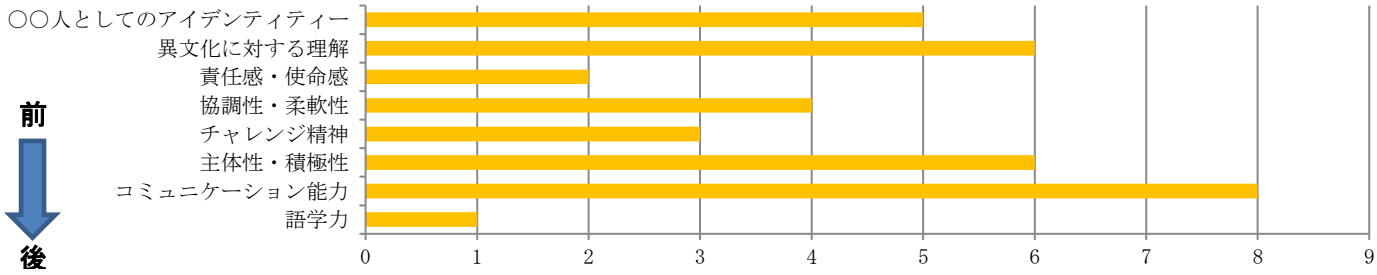
＜留学前後比較調査＞



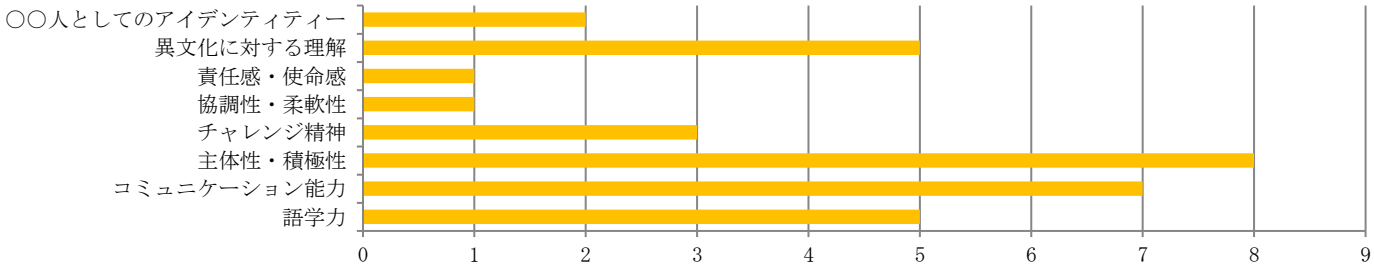




グローバル人材の条件として特に重要だと思う項目を３つ選んでください。



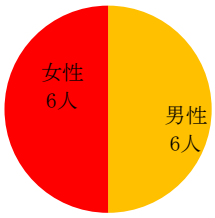
グローバル人材の条件として特に重要だと思う項目を３つ選んでください。



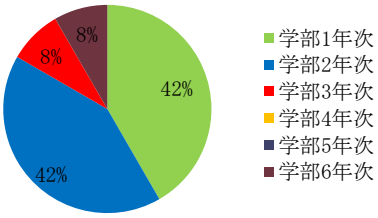
② 2019 年度レスター大学英語･文化研修プログラム　アンケート結果(3 名未回答)

＜参加者内訳＞

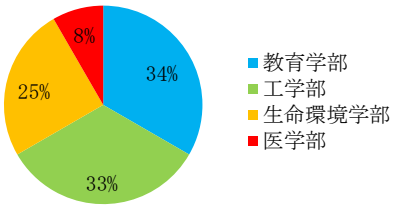
参加者内訳



参加者学年

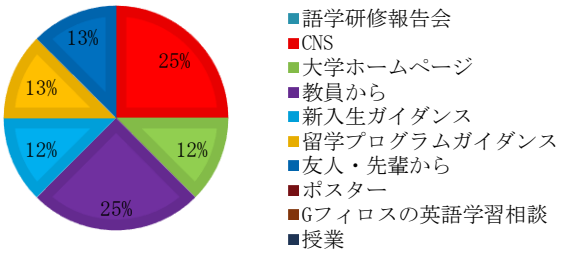


参加者所属学部

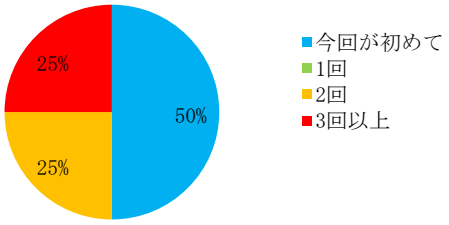


＜各項目回答＞

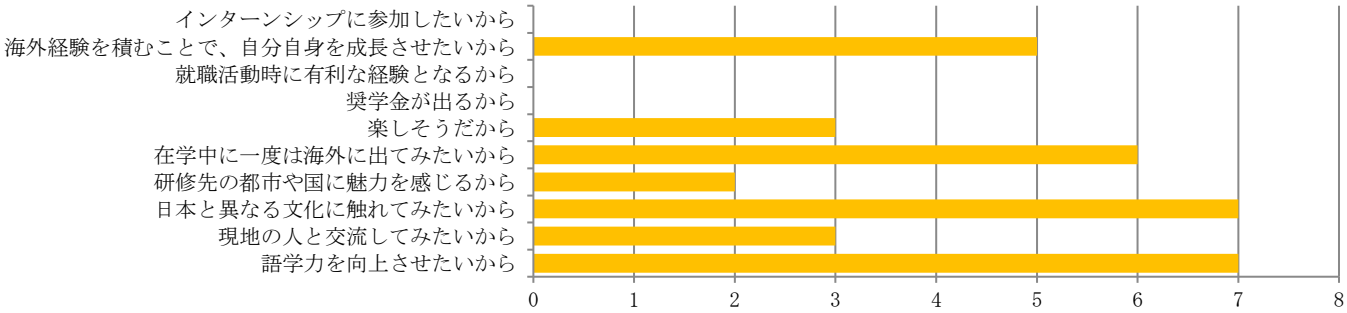
この語学研修を何で知りましたか？



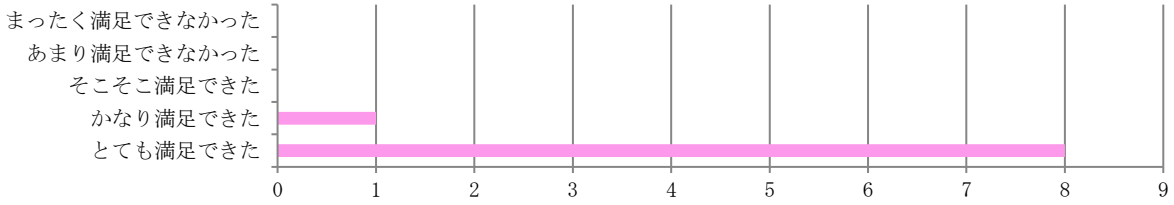
これまでに海外に行ったことはありますか？



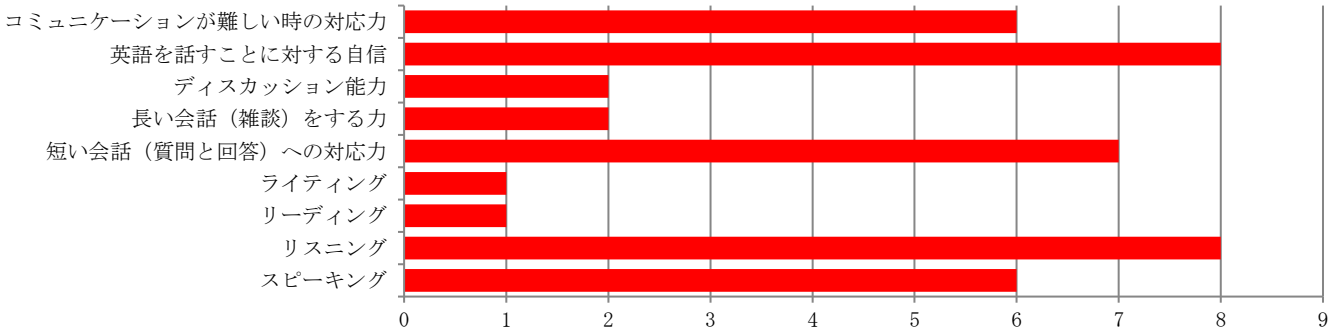
なぜ本研修に参加しようと思いましたか?（複数回答可）



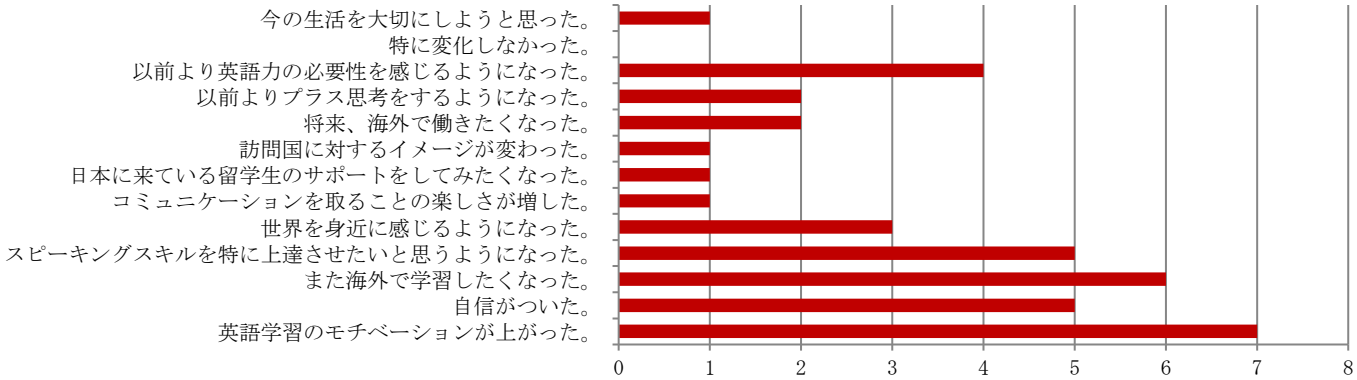
研修プログラムは満足できましたか？



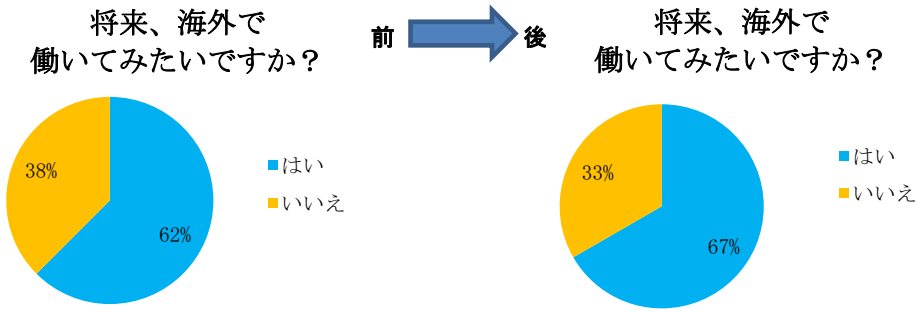
この研修で英語力のどのようなスキルが特に上達したと思いますか？（複数回答可）

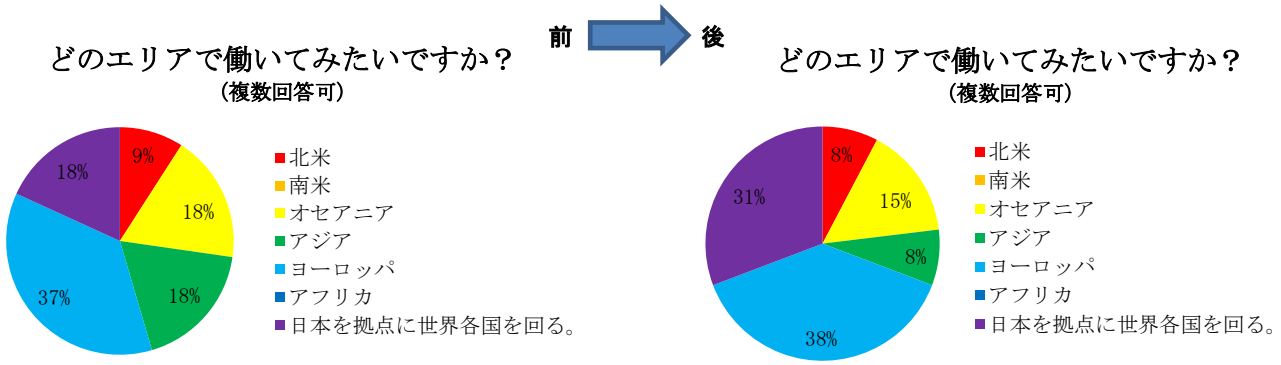


この研修によって、あなた自身は何か変化しましたか？（複数回答可）

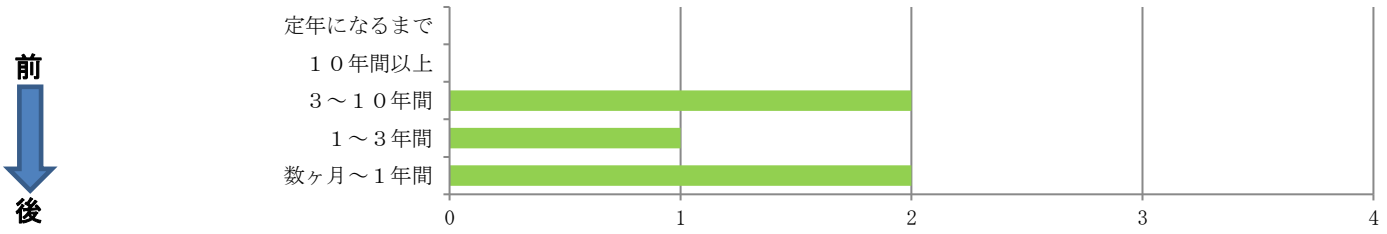


＜留学前後比較調査＞

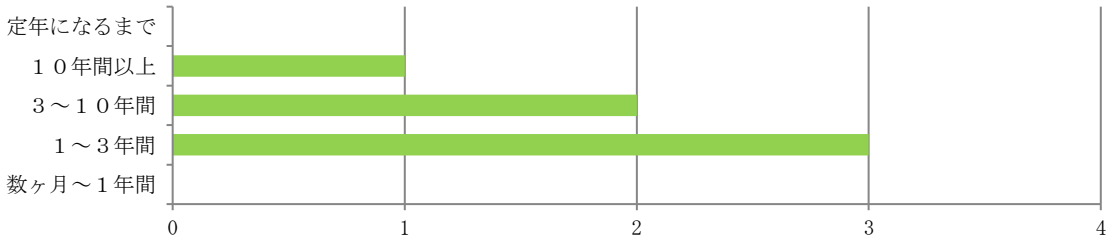




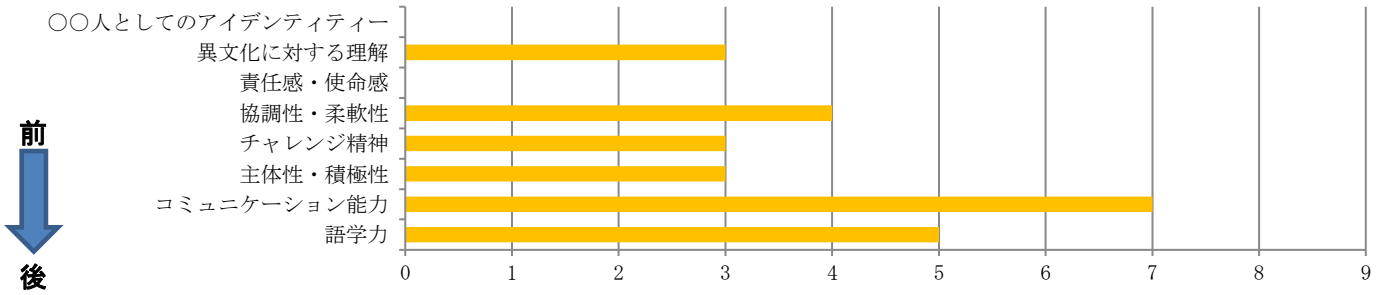
どのくらいの期間、働いてみたいですか？



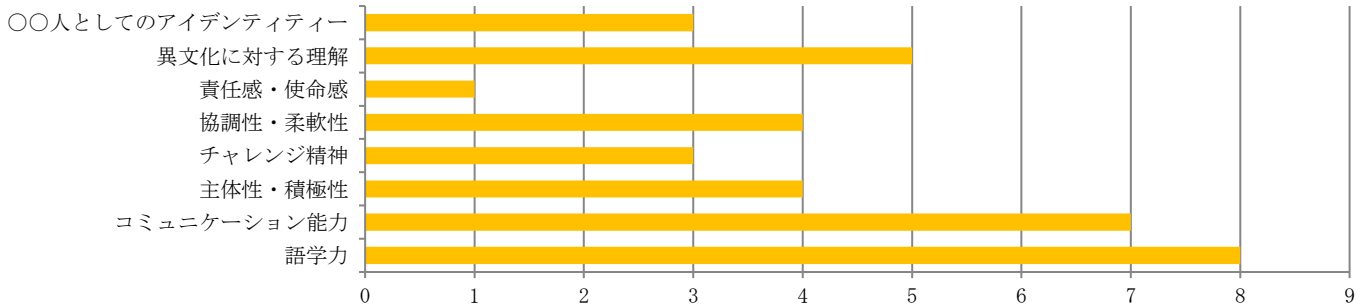
どのくらいの期間、働いてみたいですか？



グローバル人材の条件として特に重要だと思う項目を３つ選んでください



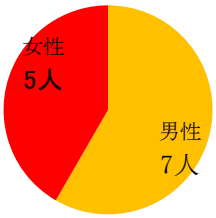
グローバル人材の条件として特に重要だと思う項目を３つ選んでください



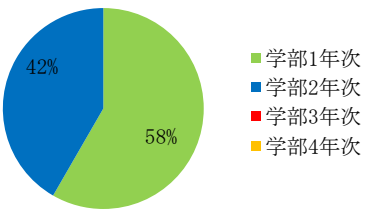
③ 2019 年度カナダ ブリティッシュ･コロンビア大学英語･文化研修プログラム アンケート結果

＜参加者内訳＞

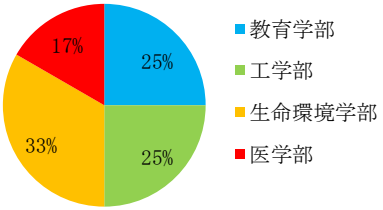
参加者内訳



参加者学年

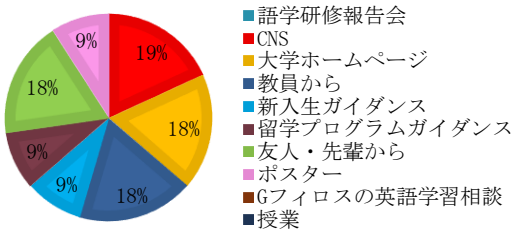


参加者所属学部

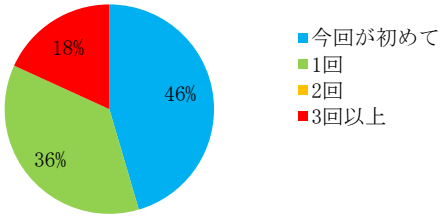


＜各項目回答＞

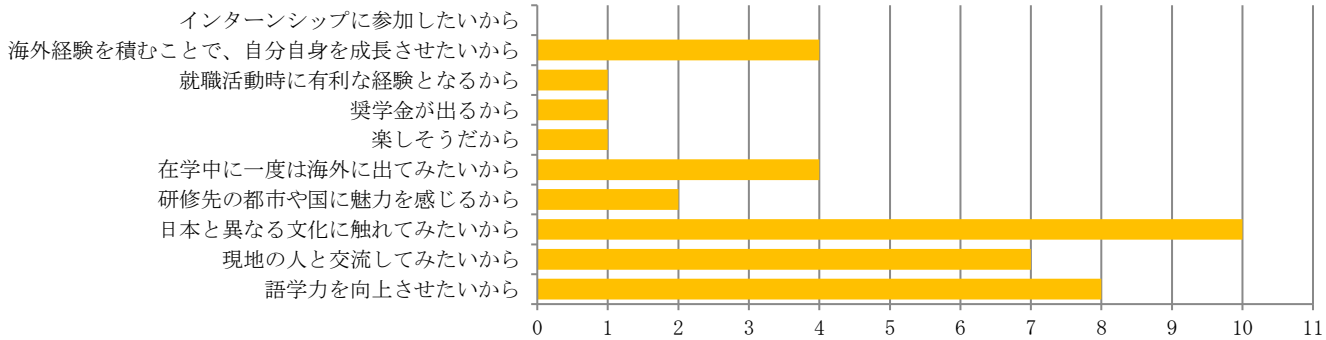
この語学研修を何で知りましたか？



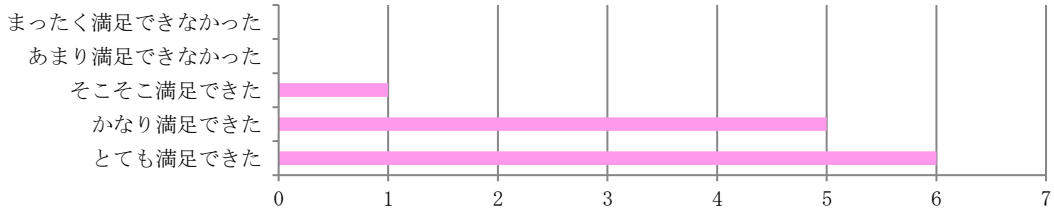
これまでに海外に行ったことはありますか？



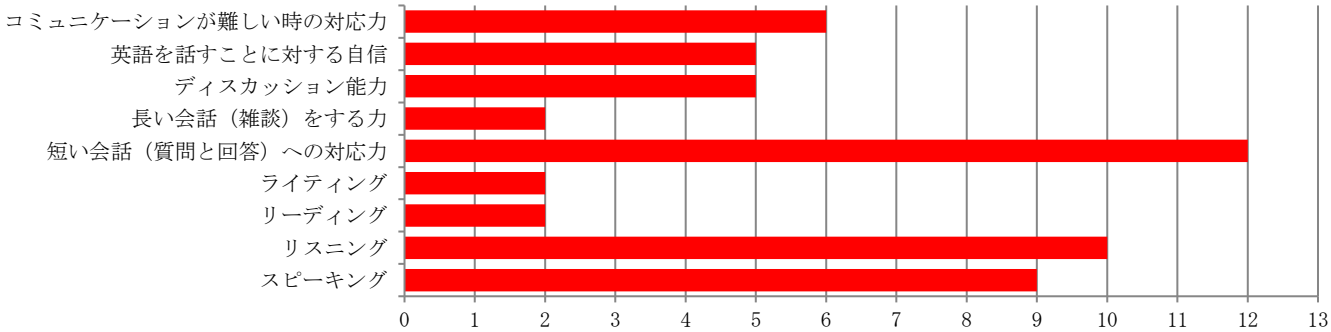
なぜ本研修に参加しようと思いましたか（複数回答可）



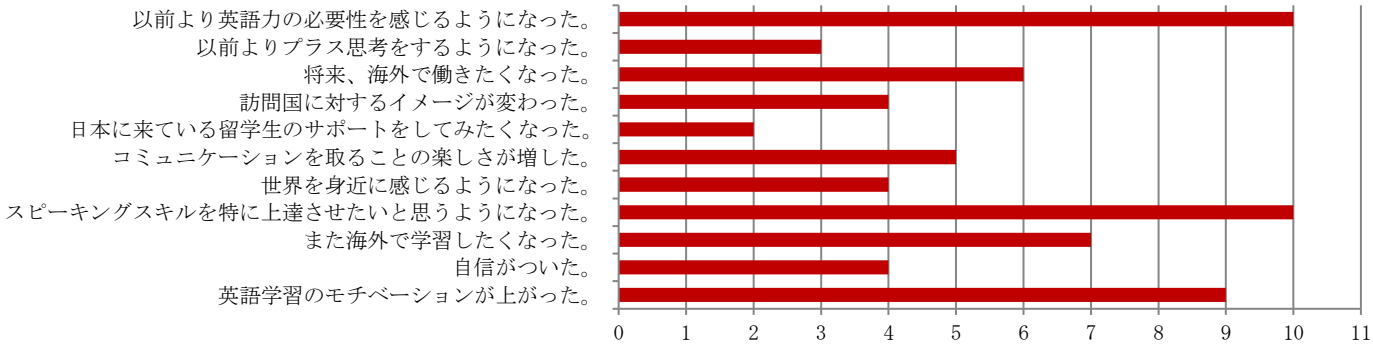
研修プログラムは満足できましたか？



この研修で英語力のどのようなスキルが特に上達したと思いますか？（複数回答可）



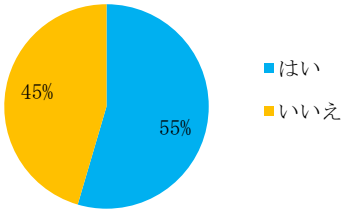
この研修によって、あなた自身は何か変化しましたか？（複数回答可）



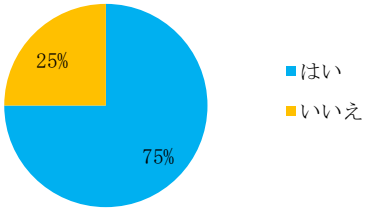
＜留学前後比較調査＞

前 → 後

将来、海外で働いてみたいですか？

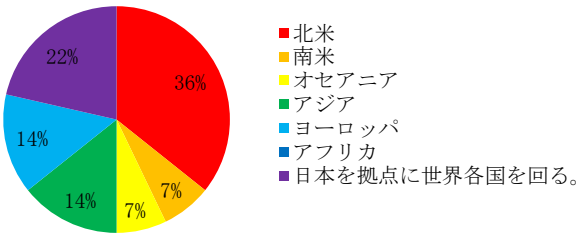


将来、海外で働いてみたいですか？

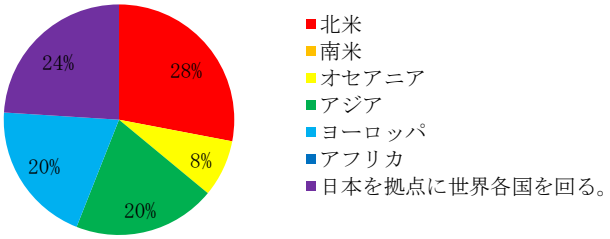


前 → 後

どのエリアで働いてみたいですか？
（複数回答可）

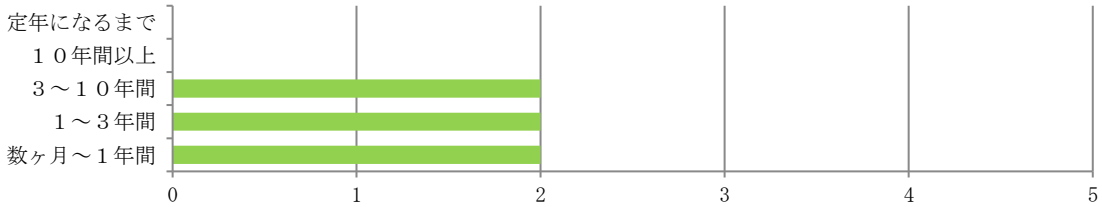


どのエリアで働いてみたいですか？
（複数回答可）

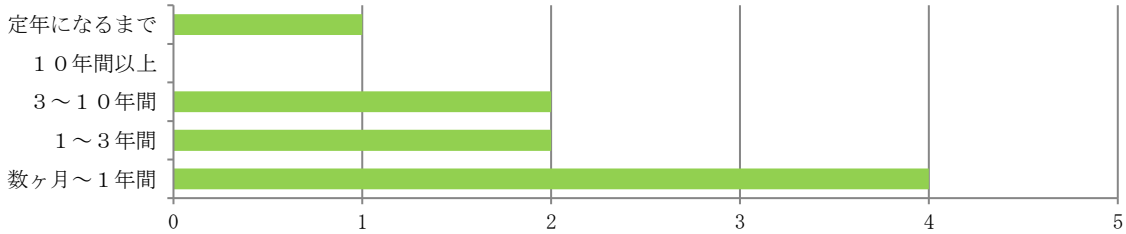


どのくらいの期間、働いてみたいですか？

前 → 後

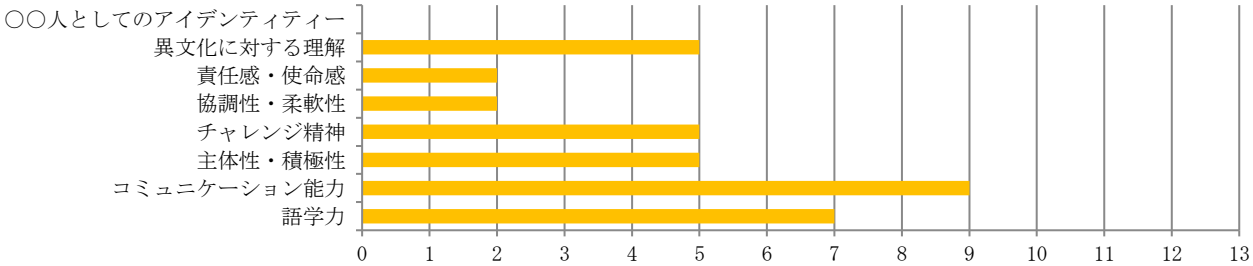


どのくらいの期間、働いてみたいですか？

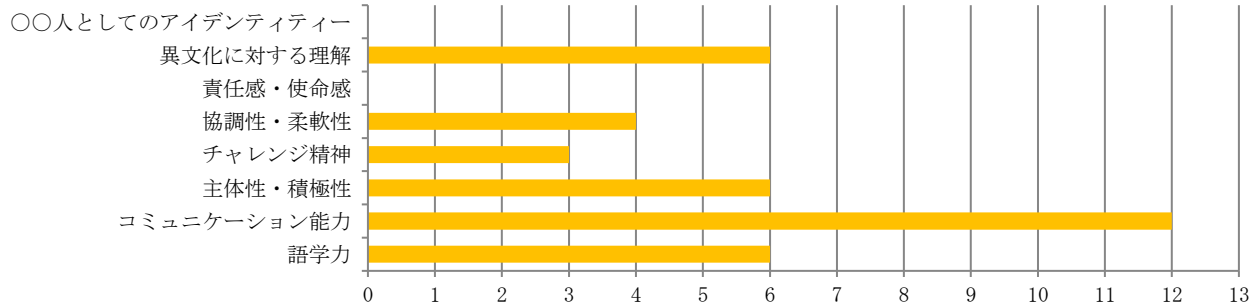


グローバル人材の条件として特に重要だと思う項目を３つ選んでください

前 → 後



グローバル人材の条件として特に重要だと思う項目を３つ選んでください



留学生サポート事業

１．日本語研修コース

国際交流センターにて開講している日本語研修コースについて、国際交流センター奥村圭子教授の年次報告を以下に掲載して報告します。

2019 年度日本語研修コースⅠ第 32・33 期 と研修コースⅡ第 16 期の報告

奥村　圭子

１．　日本語研修コースⅠとⅡの概要

山梨大学では、国際交流センターの前身である留学生センターが設置された 2003 年度の 10 月、大学院進学を目的とする国費研究留学生向けの日本語予備教育という位置づけの「日本語研修コース I」を、そして 2004 年度 10 月に「日韓共同理工系学部留学生」を受け入れるための学部前予備教育という位置づけの「日本語研修コース II」を開講し、本日に至っている。

研修コース Ⅰ は、「大学院や教員研修における研究生活に入るための基礎的な日本語力の習得をめざすこと」をコースの到達目標としている。もともと、国費留学生が研究生として大学院入学への準備を進める中で生活や研究室で必要とされる基本的なコミュニケーションができるよう、10 時 40 分から 16 時 30 分までの 3 コマを週 4 日、つまり週 12 コマを 15 週間に亘って集中的に提供するコースであった。しかし、徐々に、「日本語習得ももちろんだが、同時にできるだけ早い時点から研究準備に取り掛かってほしい」との受入れ指導教員からの声に応える形で、2016 年度週 9 コマの準集中コースとして、内容を初級後半の半ばまでを学ぶシラバスへ形を変えた。国費留学生は研究準備をしながら日本語習得を目指す一方、開講当初から受け入れている初級前半レベルの交換留学生や研究が一段落ついた大学院生、これから大学院入学を目指す研究生も積極的に参加している。

一方、研修コースⅡは、「大学・日常生活を円滑に送るため、初級で学んだ知識を運用に結びつけ、読む・書く・聴く・話す、の四技能においてコミュニケーション力を中級レベルへ高めること」を到達目標として掲げている。本来の対象者である「日韓共同理工系学部留学生」の受け入れが後期のみであったため、後期のみの開講となっている。2004 年度、2005 年度と日韓共同理工系学部留学生の受入れが続いた後は、長らく学生の配分もない状況が続いてしまったため、すでに受け入れていた初級後半から中級始めのレベルの交換留学生や大学院院試を控えた研究生を主な対象者とした、学部授業への橋渡し、または大学院前予備教育として機能させている。週 7 コマではあるが、自然なスムーズなコミュニケーションを目指し、既習の文法の土台固めをしつつ、待遇表現にも対応でき、状況や目的に合ったコミュニケーションを身に着けることができるよう、コースデザインを行っている。

両研修コースでは、言語習得のみならず、日本と山梨の地域文化への理解を深めることも目標としている。

本来これらの研修コースは、学部前、大学院前予備教育という位置づけであったため、単位の対象ではなかったが、交換留学生を送り出す協定大学からの強い要望もあり、2016 年度に研修コースⅠの前期のコースを「日本語 Intensive A」、後期のコースを「日本語 Intensive B」、そして後期のみ開講の研修コースⅡは「日本語 Intensive Ⅱ」という科目名で、留学生を対象に未修外国語学科目として単位化をし、2019 年度には延べ 12 名の交換留学生が単位取得をしている。

2016 年度から 2019 年度までの研修コースの受講者数の推移を表 1 に示す。

	研修コースⅠ														研修コースⅡ			
年度 身分	2016 前期 26 期 A	B	2016 後期 27 期	2017 前期 28 期 A	B	2017 後期 29 期 A	B	2018 前期 30 期 A	B	2018 後期 31 期 A	B	2019 前期 32 期 A	B	2019 後期 33 期	2016 後期 13 期	2017 後期 14 期	2018 後期 15 期	2019 後期 16 期
研究生	4		1	1		1								1(1)	2		3	
大学院生	1			5			6	1	6	2	1	1	1	2	2(1)			
交換留学生	1	3	2	1	4	1		3		7	1	2	5	3	4	8	5	7
教員研修生		1(1)	1(1)	1(1)		1(1)									1(1)			
計	6	4	4	8	4	3	6	4	6	9	2	3	6	6	9	8	8	7

表１　研修コースⅠ/Ⅱ　2016 年度から 2019 年度までの受講者数の推移

▭　は 2019 年度の受講生数、　（　）は国費留学生数を示す。

近年、プレイスメント・テストが終了後、日本語力が研修コースⅠレベルと II レベルの間と診断された学生が一定数いる場合、Ⅰのコースを A と B に分け、IA を本来の研修Ⅰレベル、そして研修Ⅰを既に修了、もしくはその相当レベルではあるが研修 II レベルには達しない、または前期であるため研修コース II の提供がないという場合に、IB を設け、提供するようにしている。Ⅰと II の間のレベルを提供できていることで、それまでⅠか II に無理に振り分けられていた、二つの間のレベルの学生はより適切なレベルの授業を受けられるため、アンケートでは、コマ数は限られるものの、受講生からは高評価であった。毎年受講生のレベルを見ながら担当教員と受講生を交えて、センターが提供可能な曜日と時間枠を示し、コマ数を検討し、IA と IB のクラスを組んでいる。2019 年度前期には、この要領で、研修コースⅠを二つに分け、到着したばかりの交換留学生 2 名、大学院生 1 名を対象に週に 3 コマを 2 日、計 6 コマの入門レベルの研修コース IA を提供すると同時に、2018 年度後期に研修コースⅠを修了した交換生 4 名を対象に IB クラスを設け、週に 1 日 3 コマ、初級の復習とアクティビティを用いて運用力を身に着けるクラスを提供した。IA は 3 名であったが、その中の交換生の 1 名が 1B のクラスにも並行して出席したいと希望し、IB は計 6 名のクラス編成となった。

2019 年度後期においては、研修コースⅠの該当者 6 名が日本語を集中的に学びたいという意向を示したため、9 コマ全てを到着した交換生 3 名と研究生 1 名、及び大学院生 2 名向けに入門レベルの研修コースⅠとして提供した。当初は精力的に 9 コマを受講していた受講生も 1 か月ほど経過した辺りから疲弊した様子が見られ、特に 1 セメスターのみの滞在予定の交換生 2 名からは、授業時間の短縮と課題量の削減、進度の速度を緩めてほしいと提案があったが、クラス全体で話し合ったところ、「このように集中して日本語を学ぶ機会はないため最後まで同じペースでやり通したいと」いう希望者数が彼らを上回り、多少課題を軽減し続行した。一方、2019 年度後期研修コースⅡの週 7 コマのコースには、初中級レベルの交換留学生 6 名が参加、11 月中旬から研修コースⅠに参加中の既習者の交換留学生も加わり、計 7 名で進めた。

２．2019 年度授業概要

前期研修コースⅠ 32 期 A(週 6 コマ)

受講生は全員で 3 名であった。交換留学生２名と博士課程の大学院生 1 名で構成された。交換留学生はいずれも 1 セメスターのみの滞在の学生で初修者 1 名と半年ほどの既修者 1 名であった。そして博士課程の大学院生は、日本の他大学で英語で修士課程を済ませ、二度目の日本留学で、今回はぜひとも日本語を習得したいという強い思いを持っていた。

2018 年度前期は、以下の教材を使用した。
主教材：『みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ 第 2 版本冊』1～30 課
副教材：『みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ 第 2 版 書いて覚える文型練習帳』
『みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ 第 2 版 標準問題集』
（いずれもスリーエーネットワーク）

前期研修コース IA の受講生は、全員平仮名表記は習得しており、カタカナ表記は 5 月中旬ごろには特殊音を含め書けるようになった。3 コマで本課 1 課を進めたが、最初の 1 コマで前の課の文法と語彙の復習、新しい課の新出語彙を紹介した後、新しい文法の導入の一部、午後の 1 コマで新しい文法項目を紹介した後ドリル練習で定着を図り、最後の 1 コマで応用練習やアクティビティ、そして表記を取り扱った。また、国際交流センターが運営する共創学習スペース「G-Philos」で、日本語母語話者の学生 SA とコミュニケーションを図るような課題を課すようにした。復習テストは、5～7 課毎に理解度を確認する形で行い、フィードバックをクラスで共有するようにした。

互いを励まし、認め、学び合う雰囲気があり、欠席もほとんどなく、全員がモティベーションを高く維持したクラスであった。交換留学生の 2 名が単位取得を希望し、プロジェクト発表のプレゼンテーションをクラス内で行った。

前期研修コースⅠ 32 期 B(週 3 コマ)

前年度後期に研修コース IA を終えた交換留学生を対象とした 1 日 3 コマ、週 1 回のコースであった。主教材に入る前に、『みんなの日本語初級 I』の動詞のグループ分け、活用形等を復習した後、以下の内容に入った。
主教材：『みんなの日本語初級Ⅱ 第 2 版本冊』26-36 課
副教材：『みんなの日本語初級Ⅱ 第 2 版 書いて覚える文型練習帳』
『みんなの日本語初級Ⅱ 第 2 版 標準問題集』
（いずれもスリーエーネットワーク）

研修コース IB の受講生 6 名のうち、5 名が 2018 年度後期に研修コース IA の受講生であった。休みを挟んだせいか、動詞の活用も不確かなところが見られたため、初めに本冊のⅠを用いて復習を行い、基礎を固めていった。レベル差が顕著にあるクラスであったが　研修コース IA で共に学んだ 5 名の間には既に信頼関係ができており、新しい研修コース IA から参加の交換生を温かく迎え入れ、教えあう姿も見られ、全員が受容的な態度でクラスに臨んでいた。このクラスのメンバーは同時に、教育学部の日本語教員養成科目の中の「日本語教授法 II」の実習生が行う教育実習クラスにも学習者役として参加していたが、実習生は、研修コース IB の「みんなの日本語」の進度に合わせて、既習文法を生かして、口頭練習とアクティティをする活動を盛り込んだ授業を計画し、それが受講生にとっては週 3 時間の授業では不足しがちな応用練習の機会となっていた。

後期研修コースⅠ 33 期（週 9 コマ）

専門が日本語でなく初めて日本語を学ぶという交換留学生 2 名、そして来日前に数か月学んだという交換留学生が 1 名、そのほか国費留学生の初修者 1 名と、指導教員の許可を得て日本語を研究室でのコミュニケーションに役立てたい初級前半レベルの大学院 2 名の計 6 名が参加した。
主教材：『みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ 第 2 版本冊』1～35 課
副教材：『みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ 第 2 版 書いて覚える文型練習帳』
『みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ 第 2 版 標準問題集』
（いずれもスリーエーネットワーク）

1 日 3 コマずつ週に 3 回、計 9 コマの授業は、日本語がどのような言語かを知らない初心者の交換留学生には、咀嚼する間もなく新たなインプットがあったようで、かなりの疲労が見られた。その他の受講生は既習者

であろうとなかろうと、学ぶ必要性を強く感じ、自ら学びたいという思いで参加していたため、モティベーションも高く、クラスをリードしてくれていたが、そこに温度差があったのは否めない。クラス内での応用練習とともに、共創学習スペース「G-Philos」に午後常駐している日本語サポートSAを相手に行う課題を含むようにした。後半、単位取得を目指した交換生の3名がプロジェクト発表準備を行い、成果発表会で発表を行った。

後期研修コースⅡ 16期

交換留学生6名でスタートした後期研修コースⅡは、前半は既習の語彙や表現、文法を最大限に生かしつつ、コミュニケーション力を高めることに重きを置き、後半は「読む」「聞く」「話す」「書く」で定着を図る活動を取り入れた新しい教材で、自然な言語運用ができるように授業を進めた。

第1週～10週

主教材：『WEEKLY J book1 ―日本語で話す6週間』 凡人社

副教材：『短期集中 初級日本語文法総まとめ ポイント20』スリーエーネットワーク

『短期集中 初級日本語文法総まとめ　ポイント20』を適宜、文法の復習に使いながら、「伝えたいこと」を自然な形で発話できるようにすることを目的として、既習の語彙や表現を使い、短文レベルから談話レベルへとまとまった形で話すことができるよう、また一方で相手の「伝えたいこと」をうまく上手な聞き手として聞き、スムーズなコミュニケーターになることを目指した。

第11週～15週

主教材：『初中級のにほんご』アスク

副教材：『アカデミック・プレゼンテーション入門』 ひつじ書房

11週目以降は中級へのブリッジ教材を用い、待遇表現に焦点を当てながら書き、読み、聞き、話す活動を通じて、日常的に用いる語彙、表現や文法をくり返し練習し、身に着けられるように心がけた。

３．プロジェクト発表―成果発表

2019年度後期の最後には、研修コースⅠ、及びⅡ合同のプロジェクト発表による成果発表会を行った。研修コースⅠ、そしてⅡのいずれにも、調査型のプロジェクトを課題とし、テーマは日本の文化、社会に関係があることで、日頃から疑問に思っていること、興味を抱いていることなどから自由に選んでもらい、必ずインタビューまたはアンケート調査を実施し、日本語母語話者とのインタラクションを持つことを目的とした。受講生にも最初のガイダンスで目的について詳しく説明を行い、理解を得た。

今年度はこれまでの反省を踏まえ、コースの半ばより早い段階から準備に取り掛かることとし、11月4日の週からテーマを考え始めてもらった。第7週目にプレゼンテーションの構成や内容について概要を学び、インタビューやアンケート調査で調査協力者との間で使える表現を練習し、テーマに沿った調査の目的を定めるためにマインドマップを使用し、見える形でのテーマや目的の絞り込みを行った。毎週30分から45分ほどの時間を取り、課外ですべきことの提示と語彙や表現の紹介、プレゼンテーションの構成やパワーポイント作成の注意事項などについて講義の時間を取った。研修コースIIでは、質問事項の検討と発表原稿、及びパワーポイントの推敲段階で、ピア・ラーニングを採用した。ガイドラインと準備スケジュールは以下の通りである。

研修（けんしゅう）コース：プロジェクト・プレゼンテーションについて
Guideline for the Project Presentation

1. This project presentation will account for 30 % of your assessment and this is a crucial element of the Japanese Intensive Courses I and II. Your presentation has been scheduled for Thursday, 6th of February, 2020.

2. For the students of Intensive Course I, the presentation will be for 8-10 minutes, while for the students of Intensive Course II, it will be for 10 -12 minutes, being conducted in Japanese. The theme should be related to Japanese culture, Japanese society, Japanese people's behaviours or any comparison of certain aspects of your country and Japan. The data collection should include conducting interviews or questionnaires. The purpose of the project is to have more interaction with Japanese people in Japanese (even if it is a simple Japanese).

3. The preparation for the project will be carried out on Tuesday II or IV for Intensive Course I and Monday III for Intensive Course II, as well as outside of the classes.

4. SCHEDULE

WEEK	**Content**
Week of 4 November	Deciding the theme
Week of 11 November	Listing the questions for the questionnaire or interview
Week of 18 November	Learning phrases for interviews and finalising the questions
Week of 25 November	Starting collecting data 1
Week of 2 December	Collecting data 2
Week of 9 December	Organising and analysing the data
Week of 16 December	Analysis of the data and adding other research including lit reviews & Preparation for the PPTs/scripts for yourself
Week of 6 January	Preparation for the PPTs/scripts, asking for help from *J-SAs
Week of 13 January	Preparation for the PPTs/scripts, asking for help from J-SAs
Week of 20 January	To be checked by your lecturer (twice)
Week of 27 January	Submission of the PPTs and texts: Practice of the Presentation
Week of 3 February	Practice of the Presentation in the class

＊J-SAs（Japanese Language SAs）will be available from 12:20 to 19:00 (Mon－Fri) until 4th of February, 2020.

このほか、「プレゼンテーションについて　アンケートやインタビューの手順」というマニュアルも配布している。

研修コースIの受講生のプロジェクトのテーマは、日本人の習慣や文化風習に関することが多い一方、研修コースIIの受講生の方は、自分が興味のある分野に関して、日本と自国の人々の見方や態度や行動の相違点を探るものや日本人の価値観を問うものが多く取り上げられた。中には、女性の家庭や社会での役割に関するもの、日本人の外国籍の人に対する見方や態度、LGBTに対する考え方や感情や態度などについて尋ねるものなど、母語で調査を行っても難しいテーマであり、アンケートやインタビューの調査協力者も苦慮する場面もあったようだ。しかし、研修コースIIの受講生が多く用いたインタビューでは、アンケートとは異なり、回答に対してさらに質問をし、詳しい見解を聞いたり、回答の理由を問うたり、受講者自身が関心のある分野についてたどたどしい日本語ながらも、日本人母語話者と語り合え、理解しあえたことを喜ぶ声が多く聞かれ、満足度は高かった。質問に対する回答の意味の解釈が困難な場合も、共創学習室「G-Philos」の日本語サポートSAの手を借りて、異文化への理解を深めながら、その真意を掴めたようである。

学習者は、日本の文化について自分の予想とは異なる面を発見すると同時に、意外にも自文化との共通点をも見つけた例も少なくない。また実際に自分が集めたデータの結果と、インターネットなどで言われていることとの相違点を挙げ、その相違点が生じた理由などを説明し、より深い考察ができている発表も見られた。このプロジェクトは自分でテーマを選び、調査を行い、パワーポイントに纏めるという過程を通し、日本語表現力を高めるだけではなく、聞く力、異文化理解能力、問題解決能力をも総合的に高める活動であると言えよう。

教員はファシリテーターとして学習者の様子を注視し、必要に応じてコメントやフィードバックを提供し、

誤用の訂正より課題の取り組みを支える予定であったが、研修コースIの授業の中では教員主導となりがちで、学習者に考えさせる機会を最大限与えているとは言い難い状態であったのは課題である。しかしながら、ピア・ラーニングを導入した研修コースIIでは、教員は後ろに控えるようにし、ピアからの異なる視点からの助言によって、改善に向けた意見交換が活発に行われたのは記すべき点である。受講生本人も気づかない客観的な指摘は、今後このようなプレゼンテーション準備における協働学習については、改めて考察をしたいと思っている。

４．まとめ

2019年度前期の研修コースIA とIB、後期の研修コースIIは、いずれも大きな問題もなく、学生のニーズと提供するものが合致していたと言えるが、2019年度後期の研修コースIを受講していた1セメスターの予定で来日した交換留学生2名については、ほかのクラスメイトとは異なり、日本文化を体験したいという目的で来日していた点で、本人たちの思いと提供できるものとの間に溝が生じてしまった。学部の協定大学にも本学で履修できる科目のリストを提供しているが、英語のみで提供される文化に関する科目は限られており、日本語が入門レベルである場合は日本語学習中心の勉学生活になることを事前に理解してもらい、自分でも日本語について学んできてもらう必要があると痛感した。到着後直後の日本語研修コースのガイダンスでは、とても前向きに「楽しみだ」と語っていた彼らであったが、実際の日本語学習の大変さは、彼らの想像を超えていたようである。

受講生の日本での研究生活、もしくは勉学生活が少しでもスムーズに行えるよう、この研修コースはある。2003年10月の開講当時は大学院前予備教育、そして2004年10月からは加えて学部前予備教育であったものが、形、内容を少しずつ変えつつ、さまざまなカテゴリーの留学生に「使える日本語」の教育を提供できるコース提供を行っている。これからも留学生の多様性は広がっていくことと思われるが、限られた時間枠ではあるものの、日本語を集中的に学びたいという留学生の声を漏らすことなく、できる限り要望に応えられるコースの提供を心掛けたい。

G-フィロス（グローバル共創学習室）と英語学習・留学サポート
― SA(Student Assistants)による語学サポート・異文化理解と アドバイザーによる英語学習・留学サポート ―

江崎　哲也

1. はじめに

本学では「山梨大学グローバル化に関する基本方針」に基づき、従前の留学生センターの役割を 2014 年度より拡大し、さまざまな国際交流支援活動を通じて本学のグローバル化を総合的に活性化することをミッションとする国際交流センターを設置した。グローバル人材育成に向けての取り組みの一つとして、国際交流センターでは、G-フィロス（グローバル共創学習室）の管理・運営[1]と、英語学習・留学アドバイザー[2]による学生の英語学習と海外留学のサポートを行っている。ここでは、2019 年度に行われた G-フィロス（グローバル共創学習室）の取り組みと英語学習・留学サポートについて報告する。

2. G-フィロス（グローバル共創学習室）関連の活動

本学工学部では、共創学習支援室「フィロス[3]」が学科の壁を越えた学習交流を促進する特色のある取組みを行っている。しかし、2014 年度前期まで本学には外国語や自国の文化をお互いに教えあったり共有したりする場（旧留学生センターアネックス、国際交流スペース等）はあっても、なかなか活用されなかった。そこで、国際交流スペース（本学甲府キャンパス B-1 号館 221、Y 号館２階）において、国際交流に高い意欲をもち、責任感のある留学生と日本語を母語とする学生を SA(Student Assistant　以下 SA)として配置し、さらに、英字新聞、TOEIC・TOEFL 関連書籍、日本語学習教材、日英語の DVD を配架して日本人学生及び留学生の語学学習の支援を行うとともに、気軽に異文化交流ができる国際的な共創学習支援環境を提供することとした。表 1 に 2019 年度前期の G-フィロスの時間割を示す。また、表 2 に G-フィロスの取り組み一覧を示す。

---

[1]平成 26 年度戦略・公募プロジェクトー教育関連プロジェクトー「グローバル人材育成プログラムの実施に向けた国際交流環境整備」（プロジェクト代表者: 茅 暁陽）の支援を受けている。本プロジェクトでは、ほかに協定校への海外インターンシップ付き短期留学プログラムの企画と試験的実施、協定校からの学生交流団の受入れを行った。

[2]平成 26 年度・27 年度国立大学法人運営費交付金特別経費「『学長のリーダーシップの発揮』を更に高めるための特別措置枠」による。

[3] http://www.eng.yamanashi.ac.jp/risu/kyousou/index.html

表1　G-フィロス タイムスケジュール（2019 年度前期）

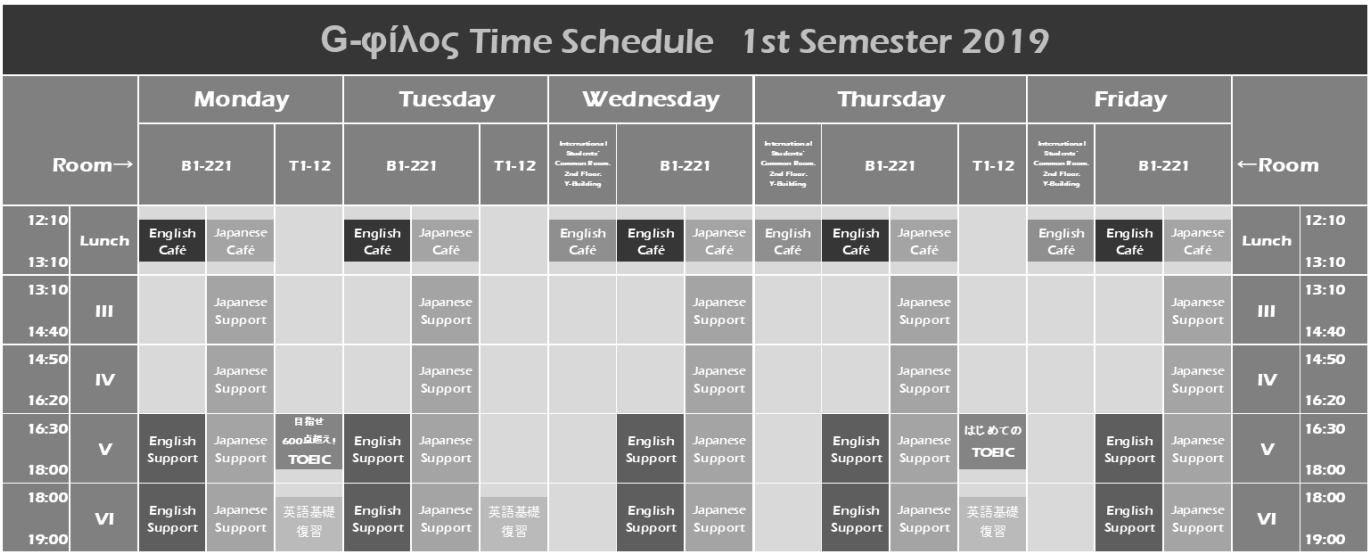


表 2　G-フィロス主な取り組み一覧

	取り組み名	1 回あたり開催時間	頻度/週	1 回あたりの配置人数
①	イングリッシュ・カフェ（2～3 会場で実施）	40 分	8～10	アドバイザー1+SA2/本学英語教員 1（週 3 回）
②	イングリッシュ・サポート	60～90 分	10～12	アドバイザー1+SA2
③	英語学習・留学個別相談	30 分	時期による	アドバイザー1～2
④	TOEIC 対策等講座	70 分	2～5	アドバイザー1
⑤	全学共通科目「総合英語」履修者対象講座	60～70 分	4	アドバイザー1
⑥	教職員向けイングリッシュ・セッション（教職員向け英語講座を含む）	40 分～60 分	2 または 1	アドバイザー1(+SA2)
⑦	医学部 C における英語学習サポート	240 分	1	アドバイザー1
⑧	諸外国語カフェ	60～90 分	3～5	SA1
⑨	日本語学習サポート	60～90 分	25	SA1

3. 英語サポート SA、英語学習・留学アドバイザーの活動

表 3 に各種サービスの利用者数（延べ人数）の推移を示す。英語学習・留学アドバイザーは、前掲の表 1 の①～⑦に関わっているが、ここでは利用者が多い①～④について説明する。利用者数については表 3 を参照のこと。

3.1 イングリッシュ・カフェ、イングリッシュ・サポート

上記①と②では、英語が話せる SA と英語学習アドバイザー、または本学英語教員が、楽しく話すことを目的としたイングリッシュ・カフェを毎日昼休みに開催した。また、夕方には国際学会の発表準備から、海外留学や旅行の前の英会話のブラッシュアップまで、さまざまな英語のサポートを行った。2019 年度前期のイングリッシュ・カフェ、イングリッシュ・サポート利用者数は、延べ 3,906 人で、前年度比 35.4%増であった。

3.2 英語学習・留学個別相談

上記③の英語学習・留学個別相談は、学生が自律的に英語学習ができるようになることを目的に、本学が 2019 年度から雇用した英語学習・留学アドバイザーが常時 2 名態勢で行った。１回 30 分の枠で、英語学習や留学に関する目標設定や学習計画、動機付け、学習の継続のために必要なことなどについて個別に（1 対 1 で）アドバイスしている。その相談内容は、TOEIC®テストや TOEFL®テスト、IELTS などの各種試験対策から、スピーキングやライティングといった特定の英語スキルの向上について、留学に向けてなど多岐に渡っている。2019 年度の相談件数は、延べ 1,111 件であった。これは件数だけで見ると 2018 年度より少ないが、稼働率（予約枠数に対して何枠相談が行われたか）は 2018 年度が約 57.6%だったのに対して、2019 年度は 73.1%となっており、効率的に英語学習・留学個別相談が行われるようになったことがわかる。

3.3 TOEIC®等対策講座

上記④の TOEIC®対策講座は、前期/後期に 1 回 70 分で計 10 回行っており、2019 年度は前期に２講座、後期に３講座開講した。本講座受講によって単位を得られることはないが、講座は TOEIC® L&R を初めて受験する学生向けのものから具体的なスコアを目標にしたものまで取り揃えており、できるだけ多くの学生が講座を受講できるようにした。2019 年度は、授業期間、長期休暇中の対策講座受講者は、延べ 444 人であった。それ以外に、集中講座やミニイベントを設け（表４参照）、学生が興味を持ち、継続的に英語の学習ができる環境を整えた。

表 3　G-フィロス各種サービスの利用者数推移

	取り組み名	延べ利用者			
		2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
①	イングリッシュ・カフェ（2 会場で実施）	2,317	2,490	2,884	**3,906**
②	イングリッシュ・サポート				
③	英語学習・留学個別相談	1,625	1,104	1,382	**1,111**
④	TOEIC 対策等講座	621	881	664	**444**
⑤	全学共通科目「総合英語」履修者対象講座	635	432	486	**647**
⑥	教職員向けイングリッシュ・セッション	239	80	27	**10**
⑦	医学部 C における英語学習サポート	156	223	196	**111**
⑧	諸外国語カフェ	242	215	167	**179**
⑨	日本語学習サポート	593	640	522	**639**
⑩	英語自律学習ポイントカード	481	591	604	**703**

４．G-フィロス関連イベント

G-フィロスでは硬軟織り交ぜて各種のイベントを行っている。表４に2019 年度に行ったイベントとその参加人数を示す。イベントの主なテーマは TOEIC®、異文化交流、留学の３つである。いずれのイベントも大変好評であり、イベントをきっかけに G-フィロスを利用し始める学生もかなり存在している。例年夏に「Summer Bash!」として開催していた異文化交流祭りを、2019 年度は甲府市、大学周辺の小学校に協力をお願いし、「こおりゅうまつり 2019（『こ』どもと『お』となと『りゅう』がくせいの『まつり』）」として開催した（甲府市には後援をお願いし、大学周辺の小学校にはチラシの配布をお願いした。）。このイベントでは本学に在籍する留学生が、出身国の料理を手作りで提供し、クイズ大会、「世界の挨拶スタンプラリー」、流しそうめんなどを行い、文字通り子どもから大人まで、そして留学生が交流して楽しめるイベントとなった。

「こおりゅうまつり」ポスター

表４　2019 年度 G-フィロス関連イベント

イベント名	日付	参加人数
G-フィロス＆英語学習サポート説明会	4 月 4 日	70 人
G-フィロス＆英語学習サポート説明会	4 月 8 日	50 人
G-フィロス＆英語学習サポート説明会	4 月 10 日	64 人
留学はじめの一歩	4 月 17 日	29 人
G-フィロスミニイベント(スピーキング)	4 月 19 日	19 人
スタートダッシュ TOEIC セミナー	4 月 24 日	52 人
G-フィロスミニイベント(TOEIC)	4 月 26 日	14 人
World Culture Café	5 月 10 日	57 人
G-フィロスミニイベント(TOEIC)	5 月 15 日	7人
G-フィロスミニイベント(スピーキング)	5 月 24 日	9人
G-フィロスミニイベント(TOEIC)	5 月 29 日	5人
G-フィロスミニイベント(スピーキング)	5 月 31 日	6人
英語ビジネスメールセミナー（TOEIC 長文問題にも役立つ）	6 月 19 日	21 人
こおりゅうまつり 2019	7 月 10 日	約 300 人
雑談力を鍛えよう！ カジュアル英会話セミナー	7 月 17 日	5人
今の力を知ろう！TOEIC（R）L&R 模試（E-ラーニング）	10 月 9 日	39 人
G-フィロスを体験しよう！	10 月 16 日	17 人
ビジネスシーンで役立つ！英語表現＆マナーセミナー	11 月 13 日	8人
かしこく時短でスコアアップ TOEIC セミナー①	11 月 29 日	17 人
かしこく時短でスコアアップ TOEIC セミナー②	12 月 6 日	23 人
Holiday Party	12 月 10 日	65 人
TOEIC ハードコアセミナー:リスニング	2 月 6 日	39 人
TOEIC ハードコアセミナー:長文読解	2 月 7 日	23 人

５．「英語自律学習ポイントカード」の配布と TOEIC/TOEFL 無料受験資格付与

英語を自律的に学習できるようにするため、積極的に上記英語関連サポートや講座に参加した学生に特典として TOEIC® IP L&R/S&W、または TOEFL ITP®の受験料のうち 3,000 円をキャッシュバックするという取り組みを行っている。それを管理するために「英語自律学習ポイントカード」を作成し、希望者に配布した。

表３の最下段に示すように、2019 年度まで「英語自律学習ポイントカード」発行枚数は徐々に増え続け、2019 年度には 703 枚に達した。これは本学の全学生のうち約 15%が「英語自律学習ポイントカード」を保持していることを意味しており、年を追うごとに G-フィロスの認知度・利用率が上昇していることがわかる。

６．まとめ

グローバル人材の育成に向けて、国際交流センターでは、外国語力、海外体験、異文化と関わる主体性と積極性、自律的語学学習について 2014 年度より継続的に取り組んできた。この中で本学が 2019 年度から雇用した語学習・留学アドバイザーの活動は、特に本学学生の英語学習の支えとなり、それが TOEIC 等のスコアの伸びや、海外留学者数の増加に大きく貢献してきた。第３期中期目標・中期計画には、G-フィロス（グローバル共創学習室）でのサポート内容をさらに充実させ、2017 年度までに全学部において海外インターンシップを実施すること、2018 年度までに大学院工学専攻において海外大学とのダブル・ディグリーまたはジョイント・ディグリープログラムの実施を開始すること、2021 年度までに G-フィロス利用者数を平成 27(20015)年度に対し 10%増加させることが含まれている。G-フィロス利用者数（イングリッシュ・カフェ、イングリッシュ・サポート）は、2015 年度に比して 2017 年度に 40%以上増加しているため、すでに目標を達成しているが、さらにグローバル人材を輩出すること、海外留学派遣者数を増加させるために、留学生 SA、日本語 SA、諸外国語 SA、英語学習・留学アドバイザーの継続雇用が必要不可欠である。

日本語・日本語関連科目

江崎　哲也

主に学部留学生を対象として開講されている、国際交流センターが提供する全学共通教育科目の日本語・日本語関連科目について 2018 年度の報告を行う。

１．開講科目

2019 年度開講の日本語・日本語関連科目は以下の通りである。科目名のⅠは前期、Ⅱは後期開講であることを指す。

前期（計９科目）

日本語初中級ＩＡ、日本語初中級ＩＢ、日本語中級ＩＡ、日本語中級ＩＢ、
日本語中上級Ⅰ、日本語上級Ⅰ、日本語演習Ａ、
日本事情Ⅰ、Language & Communication across Cultures

後期（計８科目）

日本語初中級ⅡＡ、日本語初中級ⅡＢ、日本語中級ⅡＡ、日本語中級ⅡＢ、
日本語中上級Ⅱ、日本語上級Ⅱ、
日本事情Ⅱ、異文化間コミュニケーションＢ

クラス分けは、前期・後期の履修申告の直前に行われたプレイスメント・テストの結果に基づいて行った。レベルは初中級、中級、中上級、上級の４レベルとし、演習[4]は中級以上の学生を対象とした（図１）。

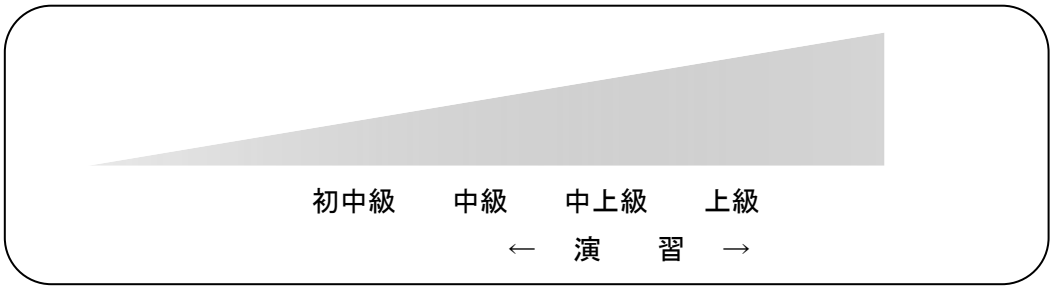


図1　日本語のレベル

各科目の受講生の学年、身分の内訳は、表１の通りである。なお、表中の NNS とは留学生、及び日本語を母語としない（あるいは日本語を第一言語としない）学生を指し、NS とは日本語を母語とする（あるいは日本語を第一言語とする）学生を指す。

[4] 「日本語演習」は口頭発表能力を向上させることを目的とした科目であるが、発表のテーマについては特に与えられず、テーマ選びから受講生自ら行わなければならないため、「中級以上、かつ学部２年生以上」という制限を設けている。しかしながら、他の授業との兼ね合いで、前期に受けられる日本語科目がない場合に限り、１年生の受講も認めている。

表１　2019 年度　日本語・日本語関連科目の受講生[5]

		受講生総数	学年・身分別にみた受講生						
			１年	２年	３年	４年	交換生	院生	研究生・教員研修生等
初中級ⅠA	NNS	3		1			2		
初中級ⅡA	NNS	7	1				6		
初中級ⅠB	NNS	13	2		1		4	1	5
初中級ⅡB	NNS	11	2				5		4
中級ⅠA	NNS	12	4				5		3
中級ⅡA	NNS	9	3		1		4		1
中級ⅠB	NNS	10	1	2	1		3	2	1
中級ⅡB	NNS	10	4	1			4		1
中上級Ⅰ	NNS	15	10		2		3		
中上級Ⅱ	NNS	9	5				4		
上級Ⅰ	NNS	11	4	2	1		3		1
上級Ⅱ	NNS	10		4					6
演習A	NNS	8		1			2		5
日本事情Ⅰ	NNS	13	7	1			4		1
	NS	25	18	2	1	4			
日本事情Ⅱ	NNS	16	3	6	1		4		2
	NS	24	16	2	2	4			
Language & Communication across Cultures	NNS	15	2	3		1	9		
	NS	16	13	3					
異文化間コミュニケーションB	NNS	17	8	5			4		
	NS	16	13	2	1				
異文化間コミュニケーションB	NNS	12	2	1			9		
	NS	25	18	6		1			

表２に日本語・日本語関連科目の受講生数の推移を示す。日本語科目（初中級、中級、中上級、上級、演習）の受講生数（延べ人数）は、2014 年度が 113 人で、2015 年度が 98 人と減少したが、2016 年度は 122 人、2017 年度は 128 人と徐々に増加していたものの、2018 年度は計 105 人と再び減少に転じていた。しかし、2019 年度は 128 人と 2017 年度と同数となった。GPA を強く意識しているためか、卒業要件に必要な日本語科目の履修が終わったと思われる学部 3・4 年生の受講生が少ない傾向は続いている。研究生、大学院生について、少しでも日本語を高めるべく積極的に日本語の授業に参加する姿が見られた。

日本語関連科目（日本事情、Intercultural Understanding through Images、Language & Communication across Cultures、異文化間コミュニケーション）は、授業の性質上、受講生数の上限を定めているが、2014 年度は 163 人（うち日本語非母語話者 43 人）、2015 年度は 124 人（うち日本語非母語話者 43 人）、2016 年度は 126 人（うち日本語非母語話者 42 人）、2017 年度は 141 人（うち日本語非母語話者 50 人）、2018 年度は 183 人（うち日本語母語話者 104 人）と増加傾向にあったものの、2019 年度は 142 人（うち日本語非母語話者は 61 人）と減少に転じた。今後とも共修授業に興味を持たせるよう、働きかけていきたい。

[5] ここでいう受講生は、単位取得希望学生（学部生・交換留学生）以外の、大学院生や研究生なども含めている。

表2　日本語・日本語関連科目の受講生数の推移

	2014 年度		2015 年度		2016 年度		2017 年度		2018 年度		2019 年度	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
日本語科目(NNS)	74	39	57	41	62	60	72	56	57	48	72	56
日本語関連科目(NNS)	19	24	19	24	19	23	21	29	58	21	28	33
日本語関連科目(NS)	65	55	33	48	35	49	42	49	51	53	41	40
合計	158	118	109	113	116	132	135	134	166	122	141	129

２．2019 年度の開講記録

各科目は、以下のような目的・内容で教室活動が行われた（表３参照）。右端の列は、本学の G-フィロス（グローバル共創学習室）の日本語学習サポートサービス、または英語学習サポートサービスを受けた上で課題を提出するよう促した回数を表しているが、特に断りがない限りは日本語学習サポートサービスを受けるよう指示した回数を示している。これは例えば、作文の宿題を課す際に、まず受講生が自分で書き、その後 G-フィロスに課題を持って行き、そこにいる日本語サポート SA（Student Assistant）にチェックしてもらってから課題を提出するように指示するということである。この取り組みを始めてから、受講生が課題に割く時間が少しずつ増加しているようである。さらにそれによって留学生の日本語力の強化にもつながっているようである。

表3　日本語・日本語関連科目の概要

授業タイトル（主な内容）	担当	主な使用テキスト、参考書	内容					G-フィロスを利用して課題を提出するよう促した課題の数
			読む	書く	聞く	話す	文法	
初中級ⅠA（会話と文法）	仲本	『J.Bridge to Intermediate Japanese』（凡人社）	△	△	◎	◎	○	3
初中級ⅡA（文法の復習と会話）	奥村	『J.Bridge to Intermediate Japanese』（凡人社）	△	○	◎	◎	○	4
初中級ⅠB（作文）	江崎	『大学・大学院 留学生の日本語②作文編』(アルク)	△	◎	△	△	○	10
初中級ⅡB（少し専門的な文章の読み方）	江崎	『改訂版大学・大学院 留学生の日本語 ①読解編』(アルク)	◎	△	△	△	○	4

中級ⅠA （読解）	江崎	『改訂版大学・大学院　留学生の日本語 ③論文読解編』（アルク）	◎	△	△	△	○	6
中級ⅡA （読解、意見のまとめ方）	伊藤	『中・上級日本語教科書 日本への招待　テキスト』（東京大学出版会；第 2 版）	◎	○	△	○	○	3
中級ⅠB （場面や相手に沿った適切な話し方）	伊藤	『日本語上級話者への道―きちんと伝える技術と表現』（スリーエーネットワーク）	△	○	◎	◎	○	10
中級ⅡB （作文）	伊藤	『小論文への 12 のステップ―中級日本語学習者対象』（スリーエーネットワーク）	△	◎	△	△	○	10
中上級Ⅰ （会話・聴解・発表）	奥村	『中上級学習者のための日本語会話』（スリーエーネットワーク）	△	△	◎	◎	△	3
中上級Ⅱ （論理的な文章の書き方）	仲本	・『大学・大学院 留学生の日本語④論文作成編』（アルク）	○	◎	△	△	○	3
上級Ⅰ （レポート・論文の書き方）	江崎	『論文ワークブック』（くろしお出版）	△	◎	△	△	○	5
上級Ⅱ （発表のし方と、新聞記事などの資料の読み方）	江崎	『トピックによる日本語総合演習　上級』、『トピックによる日本語総合演習　上級用資料集』（スリーエーネットワーク）	○	○	◎	◎	△	6
演習 A （発表のし方）	江崎	『大学生のための日本語―効果的学習のために』（産業能率大学出版部）	△	△	○	◎	△	4
日本事情Ⅰ	伊藤	『日本の風俗起源がよくわかる本』（大和書房）	日本人の学生と一緒に、日本の文化や日本事情を勉強する授業。文化や社会について学びながら、日本語力を伸ばす。テーマに基づくグループ・ディスカッションを行い、各国・地域や家庭の習慣、文化について紹介しあう。 （Ⅰ とⅡは別内容）					12（日本語非母語話者のみ）
日本事情Ⅱ	伊藤	『日本の風俗起源がよくわかる本』（大和書房）						12（日本語非母語話者のみ）

Intercultural Understanding through Images	奥村ほか	−（授業内指示、自主作成教材）	Students will be given an opportunity to both reflect on their own cultures and gain an understanding of other cultures through interaction with classmates. Through this interaction, students will recognize the limits of their own cultural frames and will be exposed to diverse systems of value and logic.	１（英語学習サポート）
Language & Communication across Cultures	奥村	−（授業内指示、自主作成教材）	This class aims to equip students to understand the role of language and communication across cultures highlighting the importance of intercultural communication and language. In the class consisting of both international and Japanese students, all the interactive activities are conducted in English.	３（英語学習サポート）
異文化間コミュニケーション	奥村	−（授業内指示、自主作成教材）	日本人の学生と一緒に、自分の文化以外の文化をどう理解するか、その文化をもつ人とどのようにコミュニケーションをするかを勉強する授業。	３（日本語非母語話者のみ）

＊「内容」の項目の記号は、◎： よく勉強する（よく取り上げる/扱う）、○： 勉強する（取り上げる/扱う）

△： あまり勉強しない（あまり取り上げない/扱わない）ということを表す。

３．まとめと今後の課題

2019 年度の日本語・日本語関連科目の日本語非母語話者の総受講生数は 189 人で、前年度比６％増であった。新入留学生数が少なかった 2018 年度には受講者数の減少が見られたが、2019 年度には 2017 年度並みに回復したと言える。

以前から行っている「G-フィロス」の利用を、2019 年度も 13 科目ある日本語科目すべてに推奨・義務付けた。それによって、日本語学習の時間が増加して、留学生の日本語力の強化にもつながったようである。また、各授業の課題以外でも日本語サポート SA を活用する事例が多々見られ、受講生が G-フィロスを積極的に利用する姿が見られた。日本語母語話者と日本語非母語話者の交流の場を広げるためにも、今後も積極的に課題の一部を G-フィロスで行うような仕組みを取り入れていきたい。

一方、日本語関連科目（「日本事情」、「異文化間コミュニケーション」、「Language and Communication across Cultures」）は、日本語非母語話者、日本語母語話者の受講生数が共に減少に転じた。入学当初から異文化に興味を持てるよう、これらの科目の履修の重要性を訴えつづけていきたい。また今後も共修型授業を通して、学生の異文化理解力を高めていき、学内の国際化にもつなげていきたい。

４．留学生支援・相談・文化交流

国際交流センターでは、留学生の生活・就学に関する相談・指導を行うだけでなく、文化体験・交流や講演会等、留学生にとって有益な行事を提供することによって、留学生が日本での生活に馴染み、学業に取り組める環境を整えるための支援も行っています。これら留学生支援・相談、文化交流について、国際交流センター伊藤孝惠准教授の年次報告に写真を加えて掲載し、報告します。

留学生支援・相談、文化交流について

伊藤 孝惠

I. 指導・相談

山梨大学における留学生のための相談体制として、国際交流センターに留学生相談室が設置されているほか、国際交流センターの各教員がそれぞれオフィス・アワーを設けている。国際交流センターでは、留学生のみならず、海外留学や国際交流、G-フィロスに関心のある学生や、日本語教育に関する相談で訪れる学生にも対応している。

本稿では、そのうち、2019 年度に留学生相談室で対応した主だった指導・相談、及び国際交流センターや国際部の一部支援行事や交流行事について報告する。

１．生活、修学、進路相談

2019 年度も、修学に関する継続相談と、冬から春にかけては就職に関する相談が中心であった。

授業への欠席や定期試験の未受験などが続く留学生には、クラス担任の先生と連携を取りながら、個別面談を重ね、保健管理センターでも診ていただいた。大学院の入試を前に、気分が落ち込んでしまった研究生には、保健管理センターで紹介していただいた精神科に付き添い、留学生相談室でも定期的に個別面談を行った。いずれのケースも、最終的には進路変更という結果になったが、自分に合った新たな道に踏み出す勇気ある一歩となったと思いたい。

就職活動中の修士 1 年、学部 3 年の留学生の個別相談は、年明けから一気に増えてくる。留学生向けの就職セミナーで自己分析や企業研究のやり方を、ワークショップ形式で体験してもらっているが、エントリーシートに書く自己 PR 文や志望動機などは当然個別性が伴うため、個人面談を何度も重ねて一緒に仕上げていく。そのためか、留学生相談室で対応した留学生は、比較的早い段階で内々定を得て就職した。

２．学部新入生個別面談

毎年 5 月の大型連休明けから、学部新入留学生を対象に 30 分～1 時間程度の個人面談を実施している。入学当初の不安な気持ちや問題があれば、話してリラックスしてもらい、各々の留学生に必要な情報を提供したりするなどして、入学期の戸惑いや不安を少しでも取り除き、スムーズに大学生活をスタートできるようにしている。知りたいことや困っていることは個々人によって異なり、また、誰に尋ねたらいいか分からないことや誰かに聞くことのほどではないと思われる疑問も、このように個別に話す機会を設けることで、問題を解消したり適切な窓口を紹介したりすることが可能となっている。

ほかにも、気になる留学生を把握しその後も様子を見守っていくことや、相談室を知ってもらい、相談担当教員と少しでも話しやすい関係づくりを行う意図もある。

３．学部 2 年次・3 年次学修・健康チェック

前期の 7 月の 2 週に亘り、昼休みに学部 2 年生と 3 年生それぞれを集め、学修と健康のチェックシートに記入してもらった。回収の際は、一人一人の回答を見ながら様子を確認し、複数の単位を落としたり、心身の不調が

見られる学生に対しては、後日個別面談を行った。

Ⅱ．支援

１．留学生ガイダンス（前期：4 月 2 日　後期：9 月 20 日）

国際交流センターでは、例年通り、前期と後期の初めに新入留学生を対象にガイダンスを開き、その後、在学生も含めて日本語プレイスメント・テストと、新入生を連れたキャンパス・ツアーを実施した。ガイダンスでは、これまでと同様、日本語・日本語関連科目の履修や、国際交流センターの指導・相談体制、国際企画課より在留資格や一時帰国の際などの諸手続きの説明を行った。また、ごみの分別や交通規則の案内、地震などの防災対策に関するパンフレット等の配布とともに、災害に備える心構えと準備を訴えた。また、日本語プレイスメント・テスト前には、新入生、在学生に対して、悪質な勧誘に対する注意喚起を行い、自転車、バイク、自動車の使用状況と保険への加入を確認するアンケート、ストレスチェックシートを配布し、回答してもらった。回収したストレスチェックシートは、留学生相談担当教員が確認し、必要に応じて個別面談を行った。

２．留学生チューター制度 / 留学生サポーター制度

従来、入学して一年目の留学生に対しては、基本的に身分を問わず修学面や生活面のサポートを担う上級学生のチューターが配置されていた。しかし、学部新入生については、クラスの中に共に学び合い助け合う友人関係を構築していくことが 4 年間の大学生活において重要であることから、2014 年度は、同学年・同学科の日本人学生をチューターとする制度に改め、2015 年度からは謝金を伴わないボランティア活動として単位化した。

一方、大学院生、研究生、交換留学生については、従来通り、指導教員の指導の下で、同じ研究室の上級生や留学生との交流に関心のある学生が、チューターとして研究や勉学、日常生活における個別の相談・補助を行ってきた。しかし、大学院生については、留学生も研究室の仲間の一人として研究室全体で助け合っていくことが現実的であることから、2019 年度からは、大学院生に対しては「留学生サポーター制度」を新たに導入した。これは、活動時期を 4、5 月とし、活動時間を 10 時間以内と限定した上で、学生サポーターに、入学当初の市役所や履修等の諸手続きの補助を行ってもらうというものである。市役所や郵便局等での手続きは、煩瑣でサポートする側の負担も大きい。そのため、限定的であるとはいえ、入学当初の煩瑣な諸手続きをサポートしてくれる学生に謝金を支払うこの「留学生サポーター制度」は、大学側の留学生支援の一環として導入した。

大学院の入試を控える研究生と交換留学生については、引き続き、チューター制度を継続した。

前期は、5 月 9 日と 10 日、後期は 10 月 7 日のそれぞれ昼休みに説明会を開き、国際企画課の職員からの手続きに関する説明の後、留学生相談室より、活動方法や活動内容、活動する際の留意点などを、資料を基に説明した。

また、成績不振や勉学に不安のある学部 2 年次以上の留学生に対しては、クラス担任の教員に面談してもらい、修学状況を同学年・同学科の学生をチューターとして配置し、当該留学生にとって難しい授業の勉強や課題作成の補助などをしてもらっている。この制度は 2014 年度から導入し、毎学期数名の留学生が利用している。

チューターによる学習支援の対象となった 2 年次以上の留学生には、各学期初めに、留学生との個別面談で修学状況を確認し、留学生相談室で留学生とそのチューターと話し合いながら、その留学生に合った支援を一緒に考えてもらっている。

また、全チューターには、毎月謝金申請のための報告以外に、メールによる活動報告も行ってもらっている。メールでの活動報告事項は、(1) 当月に何回/ 何時間、チューター活動をしたか、(2) 主にどのような活動をしたか、(3) 担当留学生の様子（生活面/ 勉学・研究面/ 人間関係/ 健康面）、(4) 担当留学生の様子について気になること、(5) チューター活動に関する質問や、困っていること、である。これには、チューター活動が円滑に行われているかの確認とともに、留学生の様子を知らせてもらい、問題の予防や早期発見・解決につなげたい意図もある。また、チューター活動の中での問題をチューター学生自身が抱え込まないよう、チューター学生へ

の指導・支援という意味もある。送られてきたメールには、コメントを返し、今後のチューター活動に役立ててもらうようにしている。

３．学部一年次外国人留学生交流パートナー制度

学部一年次の留学生には、従来からのチューターに替わり、自薦、あるいはクラス担任の先生の推薦により、同じクラスメイトの日本人学生数名が、留学生の交流パートナーとなっている。留学生のクラス内での仲間づくり・居場所づくりと学生間の協働学習の促進が目的である。登録された日本人学生は、要件を満たせば、自発的教養科目（ボランティア活動）の 1～2 単位を取得できる。

5 月 11、12 日には、お互いの親睦を深める目的で山中湖畔にて交流合宿を行い、学部新入留学生 13 名とその交流パートナーの日本人学生 16 名の計 29 名が参加した。一日目は、学科を中心とした小さなグループに分かれて、世界遺産である忍野八海を散策。夜は、留学生と日本人学生がチームになり、打ち解けた様子で互いに紹介し合った後、散策中に撮った写真を基に双方の文化の共通点と相違点をプレゼンテーションし、コンテストとして競い合った。その後は、各部屋に戻ってトランプやおしゃべりが明け方まで続くグループもあった。二日目は、交流パートナー制度についてのガイダンスを行い、山中湖花の都公園を訪れ、交流を楽しんだ。

交流合宿に参加できなかった学生には、5 月 22 日の昼休みの説明会を行った。

また、継続的な交流支援の一環として、6 月 26 日の昼休みに交流会を開き、世界のお菓子を味わいながら、コミュニケーションを目的としたカードを用い、お互いの理解を深める交流活動を行ってもらった。「子どもの頃はどんなことをしてよく遊んだか」「あなたにとって『優しい人』とはどんな人か」「一年間外国に住むとしたらどこがいいか」など、その人となりの見えにくい側面や意外性などが知れる楽しい機会となったようである。

後期には、11 月 7 日と 14 日に、交流活動に関する説明・相談会を開いた。これは、山梨県内の歴史や自然、文化、産業の魅力に触れて理解を深めてもらう活動を、計画から実施、報告まで留学生と日本人交流パートナーに話し合って決めてもらい、それに一定の補助金で支援するというものである。ほうとう打ちの体験や北口本宮富士浅間神社の参拝、大石細伝統工芸館や影絵の森美術館の鑑賞など、山梨県の魅力に触れる旅を、学生同士で計画して実行したことは、とても楽しく有意義な経験となったようである。

交流合宿（忍野八海）

交流合宿（プレゼンコンテスト）

6 月の交流会

楽しく会話

４．国際交流会館

甲府国際交流会館では、前期は 4 月 12 日、後期は 10 月 7 日のそれぞれ 18 時半より、新入居者を中心にオリエンテーションを行った。オリエンテーションでは、まず、総合情報戦略部情報システム課の職員の方から、違法ソフトのダウンロードやファイル交換ソフト Winny などの使用に対する注意があった。その後、会館チューター学生 2 名から、会館の共有スペースの使い方やごみ出しの方法、緊急連絡先や避難場所、諸経費の支払い方法等について、日本語と英語が併記されたパワーポイントを使って説明がされた。オリエンテーションの後は、会館チューター企画の「おにぎりパーティー」で親睦を深め合った。

甲府甲斐路分館においても、前期は 4 月 18 日の昼休みに、関係教職員と居住者との間で、緊急連絡先や避難場所、経費の支払い方法、ゴミの分別などについて確認した。

また、2019 年度 7 月から、男子学生寮の芙蓉寮の 2 階と 3 階が、甲府国際交流会館アネックスとして留学生寮となったことから、10 月 10 日 18 時から、アネックス居住者のためのオリエンテーションを行った。

国際交流会館では、共同の洗濯機や乾燥機に自分の洗濯物が入れっぱなしだったり、共同キッチンの流し場に使った調理器具が置きっぱなしだったりするなど、共同生活におけるトラブルもあったが、居住者で作る LINE などで話し合ったり、会館チューターがリーダーシップをとって解決を図ってくれたりしたため、大きな問題には発展しなかった。

2020 年に入ると、新型コロナウイルス感染拡大の影響による寮内のクラスター発生が懸念された。各寮の入り口には、3 密を避ける注意喚起の貼り紙と消毒液を設置し、不要不急の外出を控えるよう周知した。山梨県内で感染者の出た居酒屋を利用した寮生には、2 週間の自室待機と朝晩の検温・体調報告をしてもらった。また、一時帰国をして再入国した寮生には、一定期間別の場所で待機してもらい、健康上問題がないことが確認された後、帰寮してもらった。3 月には居住者で作る LINE や Wechat で心身の健康に問題がないか確認し、相談にのるなどした。

５．留学生のための防犯講話

10 月 24 日 16 時半～17 時半、山梨県警察本部の警察官を招いて留学生のための防犯講話を開き、80 名ほどの留学生が参加した。空き巣や自転車・バイクの盗難、痴漢、危険ドラッグ、交通ルールと自動車・自転車保険、警察への通報、就労制限と在留カード、ハザードマップの確認や災害への日頃の備え、J アラートの紹介といった多岐にわたる内容について、一通り説明があった。

講話は終始、警察の方がパワーポイントを使って、ユーモアも交えて分かりやすく説明してくださり、国際交流センターの教員が英語で通訳し、留学生が十分理解できるよう努めた。

講話の最後には警察より、反射板などの防犯グッズが留学生一人一人に手渡され、日本で安全・安心に暮らす上での心構えが留学生に伝えられる機会となった。

防犯講話に聴き入る留学生

６．留学生のための防災教室

11 月 5 日の昼休みに、甲府警察署主催、本学国際企画課共催による「留学生のための『防災教室』」を、甲府

キャンパスの大村智記念学術館前防災広場において開催した。

甲府警察署による講話では、地震や台風などの災害が発生した際の心構えのほか、自分の住んでいる地域の避難所を確認し、緊急時にはすぐに避難する重要性などが伝えられた。最後に、災害時に日本語や日本文化に不慣れな外国人留学生・旅行者等への支援を行う「外国人被災者サポーター制度」の紹介があり、レスキューシートや反射板などの防災グッズ、記念品の缶バッジが配られた。

熱心に話を聴く留学生たち

缶バッジの配布

７．留学生の就職支援

7 月 5 日(昼休み)	：「留学生のための就職ガイダンス」
12 月 6 日(16:30-19:00)	：「留学生のための就職セミナー　～自己分析編～」
12 月 16 日(16:30-17:30)	：「留学生のための就職相談会」
1 月 31 日(16:30-19:00)	：「留学生のための就職セミナー　～業界・企業分析編～」

7 月 5 日の昼休みに、大学・大学院を卒業・修了後に日本での就職を希望している留学生を対象に「留学生のための就職ガイダンス」を開催し、修士 1 年生を中心に 12 名の留学生が参加した。毎年、このガイダンスにはキャリアセンターの協力を得て、キャリアアドバイザーから、日本での就職活動のスケジュールとポイント、キャリアセンターの利用方法を説明してもらっている。

また、12 月 16 日には 16 時半から 1 時間ほど「留学生のための就職相談会」と称した相談の機会も設けた。就職活動に関する疑問や不安をキャリアアドバイザーに質問し、一人一人の状況に合ったアドバイスをもらい今後の就職活動に生かしてもらった。個別相談と異なり、各々の留学生が就職活動に関してどんな疑問や不安をもっているかを知り、キャリアアドバイザーからもらった助言や情報を、参加した留学生間で共有できる点が、この相談会の良さといえる。

12 月 6 日には、16 時半から「留学生のための就職セミナー　～自己分析編～」を、キャリアコンサルタントの国家資格を有する留学生相談担当の国際交流センターの教員が主催し、10 名の留学生が参加した。セミナーでは、日本での留学生の就職事情の説明後、いくつかのツールを用いて、エントリーシートの自己 PR で求められる自分の強みを見つけ、それを裏づける自分の経験を振り返り、まとめた。

2020 年 1 月 31 日には、16 時半から「留学生のための就職セミナー　～業界・企業分析編～」を、上記の同国際交流センターの教員が主催し、8 名の留学生が参加した。セミナーでは、業界研究、企業研究の重要性の説明後、PC で各々自分の関心のある業界や企業を調べ、ワークシートにまとめる作業を行った。

このような年間を通じた一連のガイダンス、相談会、セミナー後は、留学生相談室で個別にエントリーシートの指導をしたり、採用面接の練習や助言を行ったりしている。ただ、例年だと 3 月から本格的に始まる企業説明会も、2020 年は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、説明会の中止や延期、規模や回数の縮小、オンライン説明会などといった状況となり、留学生の就職活動にも戸惑いと混乱が見られ、不安を訴える相談が多く寄せられた。

Ⅲ．文化交流

１．ホームステイ／ホームビジット

2019 年度は、6 月 22、23 日に実施し、留学生 11 名、ホストファミリー8 組が参加した。

留学生とホストそれぞれの希望のほか、アレルギーや宗教上などの留意点、喫煙やペットの有無についても双方に申し込み時点で申告してもらい、それらを総合的に考慮して、マッチングを行った。

数日前には、参加する留学生に向けたオリエンテーションを行い、日本の家を訪問する際のマナー、交流内容に応じた服装や持ち物などを説明した。

交流活動の内容については、大学側で指定しておらず、留学生とホストファミリーの希望や予定などに応じて、無理のないよう自由に決めてもらっている。23 日の終了日には、ホストファミリーに留学生を大学まで送り届けてもらい、ホストファミリーへのお礼を直接伝え、留学生の安全を確認している。当日に、子どもが熱が出て受け入れられなくなったホストファミリーや、急遽研究室に呼び出されて、予定より早く切り上げなければならなくなった留学生もいたが、事故やトラブルも起こらず、参加者が満足する形で無事に終えることができた。

２．留学生の実地見学旅行

この実地見学旅行は、留学生の日本文化理解と留学生支援の一つとして毎年行っている。

2019 度は 9 月 18、19 日の 1 泊 2 日で、静岡県および山梨県を巡り、日本の文化と自然に触れる旅行となった。

1 日目は、「なかとみ和紙の里」で紙漉き体験をした後、「白糸の滝」、「修善寺・竹林の小径」、「恋人岬」を巡り、静岡県の西伊豆にある宇久須温泉のホテルに宿泊。2 日目は、伊豆長岡で茶摘み体験を行い、「ヤクルト裾野工場」を見学、最後に「富士北口本宮浅間神社」を参拝した。一日目は、白糸の滝を訪れた頃から雨が降り始め、修善寺では本降りとなったが、二日目は好天に恵まれ、好天の下、茶摘み娘の姿で茶摘みを楽しみ、浅間神社の厳かな雰囲気に感動した留学生もいた。

この旅行には、5 名の日本人学生も参加し、各見学場所について調べたパンフレットを日本語と英語で作成し、バスの中で説明を行ったほか、バスでの移動中も楽しめるよう、風船ゲームやクイズ、じゃんけんゲームなども準備してくれた。留学生の文化に配慮し、宗教上食べられないものやタブーなどについても調べて話し合うなど、参加した日本人学生にとっても学びの多い旅行となったようである。

紙漉き体験

白糸の滝にて

衣装を身に着けての茶摘み体験

「伊豆の味」を楽しむ参加者

３．地域交流餅つき大会

11 月 23 日、甲府国際交流会館アネックスの敷地において、国際交流会館のある岩窪地区の自治会の方々と留学生との交流会が開催され、200 名近い来場があった。この交流会は 2019 年度で 16 回目となり、甲府市の樋口雄一市長も挨拶に駆けつけてくださった。

国際交流会館、及び国際交流会館アネックスに居住する留学生は、朝早くから共同キッチンで母国の料理を作り、中国、パキスタン、マレーシア、ドイツ、イギリス、フランス等、11 カ国 26 品目の伝統料理が、会場に所狭しと並べられた。また、同じ敷地にある芙蓉寮の学生からは、鮭のちゃんちゃん焼きなど日本の料理が提供された。

料理は作った学生たち手ずから振舞われ、食べ物を通じて地域の方々との交流を楽しむ様子が、あちらこちらで見られた。

留学生らの料理の後は、岩窪自治会の方々の手ほどきを受けて、留学生も杵を振るっての餅つきが行われた。つきたてのお餅を堪能した後は、留学生による歌と岩窪自治会の方々による太鼓演奏が披露され、地域の方々と留学生との楽しい交流の機会となった。

樋口甲府市長からのご挨拶

杉山理事からのご挨拶

餅つきを体験する留学生

料理を振る舞う留学生

留学生による歌

集合写真

４．留学生の華道体験

11 月 1 日、甲府キャンパスの梨甲祭の前夜祭に、「留学生の華道体験」を行った。
これは、本学の華道部の先生と学生の協力を得て、毎年行われている行事である。
2019 年度は、中国、フランス、タイ、マダガスカルからの留学生ら 12 名が、初めての生け花に挑戦した。

花材は、菊、百合、アレカヤシ、ソリダコの 4 種類で、同じ花材でありながら、花の特徴や活ける人の想い、センスによって、さまざまな姿を見せる作品が並んだ。作品は大学祭の開催期間中展示し、多くの来客に見てもらった。

初めて生け花に挑戦

和気あいあいと会話も弾んで

真剣な表情で取り組みます

５．その他留学生支援のための行事等

ここでは、前項までの伊藤准教授からの年次報告に含まれなかったその他の留学生支援のための行事について報告します。

（1）2019 年度 学長主催 山梨大学外国人留学生懇談会を開催

2019 年 12 月 13 日（金）、甲府キャンパスにおいて、「2019 年度学長主催山梨大学外国人留学生懇談会」を開催し、外国人留学生・研究者とご家族、県内の留学生支援組織関係者や教職員等約 170 名が参加しました。

これは、本学の外国人留学生・研究者やご家族と、日頃からご支援いただいている自治体や支援組織の皆様等を交えて懇談し、相互理解を深めることを目的に毎年行っているものです。

冒頭、主催者である島田眞路学長による歓迎挨拶の後、ご来賓を代表し樋口雄一甲府市長及び田中久雄中央市長からご祝辞を頂戴しました。また、本学留学生を代表し、ベトナム及びドイツからの留学生 3 名がお礼の言葉を述べました。

懇談会ではハラール等宗教的背景にも配慮した料理が振る舞われ、歓談中には本学留学生宿舎である国際交流会館の入居者が合唱を披露し、会場は大いに盛り上がりました。

歓迎の挨拶をする島田学長

挨拶する樋口市長

挨拶する田中市長

懇談会の様子

国際交流会館入居学生による合唱

Ⅲ.　国際化教育

国際的な環境で勉強できるキャンパスの整備に向け、国際交流センターでは「G-フィロス（グローバル共創学習室）」を中心に、日本人学生と外国人留学生が共に学び、異文化理解・交流を行う機会を数多く設けています。

G-フィロス

グローバル共創学習室『G-フィロス』とは、国際的なコミュニケーションを育成する場として、異文化理解や語学学習を通じ、学生間で互いに学び合う学習環境のことです。日常的には、英語に限らず語学の勉強を学生同士でお互いにサポートするようなサービスを提供し、それ以外にも異文化交流イベントを開催するなどして、学生の学び合う環境を整えています。

１．交流イベント

G-フィロスでは、キャンパスのグローバル化を促進するために、学生や教職員と留学生が交流する場を設けています。主に文化紹介シリーズのイベントや、毎年恒例の行事になりつつある夏祭りやホリデーパーティーなど、誰もが気軽に参加し異文化交流できるイベントを１年を通して開催しています。

(1) 新入生向け「G-フィロス＆英語学習サポート説明会」を開催：
2019 年 4 月 4 日（木）・8 日（月）・10 日（水）

山梨大学では、グローバルに活躍できる人材を育成すべく、多岐にわたる支援を行っています。

その一つである「G-フィロス(グローバル共創学習室)」の説明会を 2019 年 4 月に 3 回行い、本年度は、昨年度を上回る合計 184 名が参加しました。新入生の諸外国や語学学習への意識の高さが年々高まってきていることを肌で感じました。

説明会では、以下内容について紹介されました。

・「G-フィロス」の概要、活動内容
・プロのアドバイザーによる英語学習サポート
・学内 TOEIC・TOEFL のキャッシュバック制度
・英語以外の、留学生による語学カフェ
・山梨大学の留学プログラムの概要

また、G-フィロスの様子や国際交流イベントの動画も流され、参加学生たちの真剣に耳を傾ける様子や、英語学習について、また留学への期待に満ちた表情が見受けられました。

たくさんの新入生が参加してくれました

ガイダンスの様子

(2) English Café がスタート：2019 年 4 月 11 日（木）

English Café がスタートしました。2019 年度の English Café 初日は、新入生を中心に約 50 名もの学生が G-フィロス(B1-221)に集まったため、急遽会場横の廊下にもテーブルと椅子を用意しました。

はじめはドキドキして、自分から話を切り出せなかった学生も留学生や他の学生の皆さんと楽しくお話しするうちに、身振り手振りも使いながら、笑顔で英会話を楽しんでいました。学生の皆さんの自分の思いを伝えようとする熱心な姿がたくさん見られました。

参加者で混み合う会場

交流を楽しむ参加者

(3) World Culture Café を開催：2019 年 5 月 10 日（金）

本学の留学生が自国の食文化について紹介する、『World Culture Café』が開催され、学生と教職員が 60 名近く参加しました。

このイベントは、学生ら参加者が親睦を深めるとともに、異文化への理解を深めることを目的に行われました。

今回は、タイとドイツの留学生が自国の料理を手作りし、参加者に料理の説明をした後、みんなで試食しました。

タイの料理は、春雨とエビや豚肉を炒めた「ヤムウンセン」と豚肉のひき肉をニンニクと共にスパイシーに炒めた「ラーブ」が用意されました。本場の辛さに、参加者たちはびっくりしながらも「おいしい！」と後引く辛さを味わっていました。

ドイツの料理は、小麦粉から練って作ったプレッツェルと野菜がたくさん入ったまろやかな塩味の利いたじゃがいものスープでした。普段食べているパンやスープとは少し違った味わいを皆、噛みしめていました。

おいしく食事を楽しみながら、和やかに懇談し、楽しいひとときとなりました。

料理の説明を行うタイの学生とドイツの留学生

タイ料理とドイツ料理をお皿いっぱいに盛って

(4) Holiday Party を開催：2019 年 12 月 10 日(火)

毎年恒例のホリデーパーティーを開催し、留学生や日本人学生、教職員ら約 70 名が参加しました。

ドイツ出身留学生によるプレゼンテーションをはじめ、モンゴル語、タイ語と英語を使用したゲームを行いました。これまで面識がなかった学生同士もコミュニケーションを取り合い、異文化交流を楽しんでいる様子でした。

パーティーを楽しむ留学生

参加者集合写真

２．Student Assistants（SA）の活動

Student Assistants（SA）は、日本人学生及び留学生を短期雇用する形で運営しており、日本語・英語その他言語のサポートを行っているほか、前項で紹介した異文化交流イベントの際などに中心的役割を担っています。

以下に、日本語サポート SA と留学生 SA の 2 つの SA の活動について報告します。

(1)　日本語サポート SA

日本人学生及び日本語が堪能な留学生で行っています。SA を勤める学生が指定の時間内つねに在席しており、留学生のレポートやその他課題の日本語チェック、日本語能力検定試験等の勉強サポートなど、日本語を学ぶ留学生がいつでも気軽に、無料でサポートを受ける事が出来るようになっています。日本語 SA によるサポートは、日本語・日本語関連科目の中でも活用されており、留学生の日本語学習において非常に大きな役割を担うようになりました。日本語そのものの学習サポートだけではなく、SA を勤める学生の学問的な専門分野も幅広く、日本語で専門分野を学ぶ留学生の大きな助けとなっています。そのほか、日本文化体験イベントや G-フィロス Facebook ページへの投稿なども、日本語 SA が中心となって行っています。サポートの受けられる時間は前期・後期ごとに G-フィロスタイムスケジュールを掲示して利用者に知らせています。

(2)　留学生 SA

留学生 SA は、イングリッシュ・カフェ、イングリッシュ・サポート、諸外国語カフェを担当しています。イングリッシュ・カフェは昼休みの時間帯に開催しており、日本人・留学生問わず、英語学習を目的とした多くの学生が、昼休みを利用して気軽に留学生との会話・交流を楽しめる形態となっています。イングリッシュ・サポートは、主にⅤ限目・Ⅵ限目の時間帯に行っており、日本語サポート SA の活動と同様、英会話を中心に、利用学生の英語学習におけるさまざまなサポートを提供しています。

諸外国語カフェについては、「○○（国名）カフェ」という形で、母国の文化紹介をしながら言語も学んでもらうという形式になっており、カフェで行う活動の内容は SA を勤める留学生が自ら発案して行っています。その年、その学期に SA を勤める留学生の母国語で開催されており、2019 年度は、前期に中国語とドイツ語、ベトナム語、マレー語、後期に韓国語と中国語が行われました。

イングリッシュ・カフェの様子

３．英語学習・留学アドバイザーによるサポート

英語学習・留学アドバイザーは、常時 2 名体制をとって学生の英語学習と海外留学のサポートを行っています。英語学習・留学に関して個別相談を受けるほか、先に紹介した留学生 SA のイングリッシュ・カフェやイングリッシュ・サポートを SA と共に運営しています。プロのアドバイザーの指導や相談を、本学学生であれば無料で受けることができるとあって好評で、導入した 2014 年度以降、利用者は年々増加傾向にあり、安定的な運用を行っています。

2019 年度は、アドバイザーが主催するさまざまな英語学習・留学関連イベントが数多く行われましたので、これらイベントについて以下に報告していきます。

(1)　G-フィロスミニイベント『会話が弾む！　気の利いた英語表現！』を開催：2019 年 4 月 19 日(金)

G-フィロスミニイベント『会話が弾む！　気の利いた英語表現！』を開催しました。

1 年生を中心とした多くの学生で大盛り上がり！　初対面の人の前でもスムーズに話せるコツを練習しました。英語学習アドバイザーより「Introduction で心を掴む！」「Question で距離を縮める！」と「Response で盛り上げる！」の 3 ステップで会話を弾ませるテクニックを伝授。そして、さっそく参加者同士で実践しました。

参加学生からは、「English Café や English Support で学んだ表現を使うことが楽しみ！」「これまで英会話は受け身になりがちだったが、これからは積極的にできるように学んだテクニックを意識したい」などの声を聞くことができました。

(2)「スタートダッシュ TOEIC®L&R セミナー」を開催：2019 年 4 月 24 日(水)

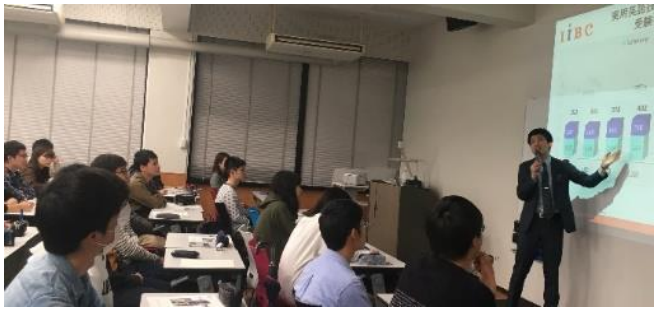
スタートダッシュ TOEIC®L&R セミナーが開催され、50 名を超える学生の皆さんが参加されました。

IIBC(TOEIC 運営会社)より来校された担当より、留学や就活などで TOEIC がいかに有効に活用できるのかについて、具体的な事例を交えてお話しいただきました。

英語学習アドバイザーからは、実際に TOEIC のサンプル問題を使用し、各パートにおける平均解答時間配分や問題の解き方のコツ、学習方法を説明しました。今まで知らなかった TOEIC テストに向けての見通しを持つことができた、セミナーになりました。

学生の皆さんはメモを取りながら、今後の TOEIC ハイスコアへの筋道を考えていました。

参加者でいっぱいになった教室



IIBC 担当者による説明

(3) G-フィロスミニイベント「写真でボキャビル！」を開催：2019 年 4 月 26 日(金)

G-フィロスミニイベント「写真でボキャビル！」を行いました。連休前の金曜の夕方開催にも関わらず、「単語を効果的に学習したい！」という学生の皆さんが集まって一緒に楽しく勉強しました。

物事を覚えるときに、目で見て、物事をとらえることが得意な人が多いので、視覚・聴覚を同時に使って単語を覚えていく学習方法を勉強しました。英単語を覚えるときに、正しい音と文字をリンクさせて考えていくことが大事だという話にみんな「なるほどな」という表情でした。

同じテーブルになった学生同士で普段の単語の勉強法を話したり、実際に視覚・聴覚を使った単語学習をしていきました。チャンツを使って、そのリズムにのり、お互いに発音し合いました。

参加者は 1 年生が中心で、早い段階から TOEIC の勉強をスタートしているやる気のある学生ばかりでした。スマートフォンを使って、Google 検索の写真を利用し、イメージ（写真）を使って単語を覚えました。

学生同士で単語の勉強方法についてシェア

スマートフォンを活用

(4) G-フィロスミニイベント「文法問題高速解答トレーニング」を開催：2019 年 5 月 15 日(水)

G-フィロスミニイベント「文法問題高速解答トレーニング」を開催しました。

英語学習アドバイザーより TOEIC®L&R の文法問題を素早く解くコツを紹介。その後ゲーム感覚でできる早解きアクティビティに挑戦しました。

答え合わせでは、誤答の確認だけでなく、正解、不正解それぞれの根拠を言えるようになるまで確認することで力がつくことがわかりました。

(5) G-フィロスミニイベント「ロマンス♡英会話」を開催：2019 年 5 月 24 日(金)

G-フィロスミニイベントのスピーキング対策『ロマンス♡英会話』を開催しました。

外国人とコミュニケーションを図る際は、相手の文化的背景を把握する必要があります。

海外経験豊富な英語学習アドバイザーが、ゲストにドイツ人とフランス人の留学生を招いて、恋愛に関するさまざまな英会話フレーズを紹介。

日本人学生からすると恥ずかしくて勇気がいるテーマのようでしたが、外国人に対し英会話で想いを伝える際は、感情をオープン、かつおおげさに表現する大事さを学んだようです。

留学生によるフレーズ紹介

アクティビティの様子

(6) G-フィロスミニイベント「構えて聞く！ リスニング㊙テクニック」を開催：2019 年 5 月 29 日(水)

G-フィロスミニイベントの TOEIC 対策『構えて聞く！ リスニング㊙テクニック』を開催しました。

TOEIC 受験経験者の多い参加学生たちは、600 点を目指すことを前提に、TOEIC を知り尽くした英語学習アドバイザーからリスニング高得点の秘訣を教わりました。

TOEIC のリスニングセクションは、前半 45 分間に 100 問が続きます。（リーディングセクションは、後半 75 分間で 100 問）

受験する際の心構えや、マークシートの塗り方、先読みのポイント、質問からの回答分析・予測、正答率を上げるため捨て問題を見極めて先に進む「思いきり」などの大事さについて、丁寧に伝えられました。

参加学生たちは、リスニングのハイスコア術を理解したためか、自信に満ちた表情が印象的でした。

(7) G-フィロスミニイベント「なりきりネイティブ！ 発音レッスン」を開催：2019 年 5 月 31 日(金)

G-フィロスミニイベントの英語スピーキング対策『なりきりネイティブ！ 発音レッスン』を開催しました。

まず、音と文字のつながりとして、英語アルファベットの一つ一つの持つ音を確認しました。

そして、日本語話者が間違えて発音してしまいがちな単語をクイズ形式で学んだり、スマートフォンの音声認識機能を使って確認したりと、参加された皆さんは積極的に取り組んでいました。

L と R を正しく発音することは、多くの日本語話者にとって難しいもの…

そこで、英語学習アドバイザーの秘密道具が登場！　歯、舌、唇の模型を使っての解説は、口の動きを知るためにとてもわかりやすかったのではないでしょうか。

イベント終了後も熱心に質問する人や、早速 G-フィロスで行われている English support に参加し練習する人もいました。

秘密道具が登場

音声認識機能を活用

(8)　英語ビジネスメールセミナーを開催：2019 年 6 月 19 日(水)

『英語ビジネスメールセミナー』を開催しました。20 名を超える学生と教職員の皆さんが参加しました。

TOEIC 長文問題でもよく出題されるビジネスメールについて、タイトルや差出人、宛先、メールアドレスなどから、キーワードを読み取ってペアやグループでお互いに共有しました。もうすぐ夏休みということで、飛行機で自分の荷物がなくなってしまったとき航空会社とメールでどんなやりとりがなされるのか想定した問題でした。

実践でも役立つ表現も一つ一つ確認したり、普通のメールとビジネスメールの違いなども学習しました。
セミナーの後半では、TOEIC®S&W のサンプル問題を使って、実際にビジネスメール英文でメールの返信を書いてもらいました。

アドバイザーによる丁寧な指導

実際に返信メールを作成

(9)　TOEIC®L&R ハーフ模試セミナーを開催：2019 年 10 月 9 日(水)

E-ラーニングによる TOEIC®L&R のハーフ模試を開催し、約 40 名が参加しました。

就職活動や院試を前に、TOEIC がどんなテストなのか理解するために参加した学生も多く、今後必要なスコア目標が定まったようでした。また、普段の国際交流イベントにはあまり参加しない学生も多く見受けられました。

今の実力試しや、TOEIC の問題形式を知る良い機会になったようです。

(10)　TOEIC 対策セミナーを開催：2019 年 11 月 29 日（金）・12 月 6 日（金）

『かしこく時短でスコアアップ TOEIC セミナー』を 2 回に分けて開催しました。

2019 年 11 月 29 日(金)の【Listening 対策】に約 20 名、12 月 6 日(金)の【Reading 対策】に約 25 名が参加しました。TOEIC スコアアップの確かな一助となったようです。

(11)　TOEIC® 集中セミナーを開催：2020 年 2 月 6 日（木）・2 月 7 日（金）

TOEIC® L&R 短期集中セミナーが開催されました。

短期間でのスコアアップを目指した「TOEIC® L&R ハードコアセミナー」が開催されました。
2 月 6 日(木)はリスニング講座 3 コマ、2 月 7 日(金)はリーディング講座 3 コマというタイトなスケジュールながら、参加した多くの学生は 2 日間通して受講しました。

受講した学生からは、「自分ではできない部分をわかりやすく教えてもらえた」、「教わった学習法を継続し、TOEIC テストのスコアアップにつなげたい」といった声が聞かれました。

医学部キャンパスでの取り組み

国際交流センターは、山梨大学甲府キャンパスに設置されていますが、10 kmほど離れた医学部キャンパスには分室を設置し、教授１名を配置して、医学部学生の英語学習サポートや留学生支援などを行っています。その取組について、国際交流センター医学部分室・宮本和子教授の年次報告を掲載して報告します。

2019 年度　医学部での国際交流活動:英語学習支援･留学生支援･他の国際交流に関する取り組み

国際交流センター医学部分室

宮本和子

１．英語アドバイザーによる医学部英語サポート・英語講座報告

（１）前期

２時限目を英語相談、昼休み（12：20～13：00）を English Café として実施した。英語相談は医学部学生の必修科目授業と重なることが多く、通常 2～3 名程度の参加であった。大学院生や教員の参加も見られた。昼休みの English Café は 2～6 名程度の参加者であった。参加者の多くが一定以上の英会話能力を持っており、短期～長期の留学経験者も多く含まれていた。初級レベルの学生には入りにくいと感じさせてしまう可能性がある。英語相談は分室教員のゼミ学生がカンボジアでの卒業研究と統合実習を実施する準備のために 7～9 月にアドバイザーから支援をいただくなど、特に英語を必要とする学生の支援としても有効であった。

昨年上がった課題（「より深く学びたい」という声）に対応し、学生・教職員を対象として、夕方開催で、じっくり学べる講座も開催された。しかし、学生の参加は特に増えることが無かった。プレゼンテーション講座は教員の出席が多かった。

① 英語スピーキング試験対策講座：5 月 17 日(金)17:30-19:00

② 英語プレゼンテーション講座：6 月 7 日(金) 17:30-19:00

（２）後期

前期同様、2 時限目を英語相談、昼休み（12：20～13：00）を English Café として実施した。

2 時限目の英語講座は受講する講義等のない学生、大学院生や教職員が活用していた。English Café も毎回 2～6 名程度の学生や教職員が参加していた。昼休みの開催は学生が気軽に立ち寄れる利点があり、参加者がいないという状況はみられなかった。

医学部の英語サポートは週 1 回の限られた時間帯のため、学生にとっては利便性がないという声が聞かれた。より多くの学生が利用しやすく、また英語力向上につながるような工夫を今後も考えていく必要がある。

（３）一年を通して

定例活動には一定の学生が継続して参加している。定例活動以外にも、英語アドバイザーがさまざまな工夫をし、前年度の学生からの要望に対応して新規プログラムを準備し、実施した。夕方のプログラムも追加したが、受講生の大幅な増加にはつながっていない。必修授業が多く、空き時間が乏しいため医学部学生は自分の時間に合わせて柔軟に参加できるプログラムを希望しているが、現状ではその要望への対応は難しい。

前期・後期通じて、若干の茶菓（カンボジアの茶菓含む）を準備し、参加者がリラックスして話せる環境を作れるよう配慮した。

２．医学部留学生支援報告

（１）医学部留学生日本語補講Ｅクラス

N2 以上の日本語能力がある医学部留学生を対象に実施した。前期、後期共に 2 名が受講者した。同じクラスでも日本語レベルと学習したい内容が異なったため、隔週で 1 名ずつの受講生で実施した。内容は N2 クラステキストを使用した日本語能力の向上、日本語会話能力の向上のためのテーマを決めた会話などを基本とし、就職試験のためのエントリーシート記入支援・自己紹介文添削、日本語スピーチ大会参加のための練習、など受講生のその時々のニーズにも対応しながら、柔軟に内容を調整した。1 月に下旬に学生が中国へ一時帰国した（春節のため）。大学に戻った後も COVID-19 流行の影響を考慮し 2 月上旬の開講を見送った。

（２）統計講座：講師の都合により、今年度は開催されなかった。

３．English Café スペシャル：カンボジア Day の開催

日時：5 月 10 日(金)　16：30 ～18：00

会場：医学科講義棟 2 階　2015 教室

看護学科学生 4 名が参加した。

講師（宮本）がカンボジアで撮った写真などを用いカンボジアの文化・歴史・人々の生活紹介やクイズを行った。看護学科学生がカンボジアに渡航し卒業研究・統合実習を行っている様子も紹介し、学生が留学や海外渡航する意義について話し合った。後半はカンボジアコーヒーや各種お茶、お菓子などを楽しみながら意見交換を行った。奥村教授も途中から参加し、学生時代に留学を体験する意義などを説明した。

カンボジア Day の内容の一部

４．医学部国際交流委員会と協力し大学の短期留学プログラムを紹介

大学主催の留学情報の提供を医学部国際交流委員会や学務課との協力の下実施した。今年度から医学部 2 年生の新年度ガイダンスで本学の留学について説明する時間をとるようにした。また留学募集時には学部内の複数個所に案内ポスターを掲示、看護学科では学年ごとに全学生にチラシ配布を行った。

Ⅳ.　地域貢献

国際交流センターは、キャンパス内だけではなく、地域全体のグローバル化にも貢献したいと考えています。地元教育機関や自治体など、さまざまな団体のイベントや国際交流事業に留学生を派遣することは、地域貢献だけではなく、留学生に異文化交流の機会を与えることにもつながっています。

留学生の地域との交流

留学生にとって地域との交流は、自らの暮らす地域をよく知り親しむことで安心して暮らすことができるだけではなく、卒業後も山梨に留まり定住するという選択肢を広げるきっかけともなります。留学生と地域の方々との交流だけではなく、県や自治体の実施するイベントへの留学生の参加についてご報告します。

（1） 信玄公祭りへの参加：2019 年 4 月 6 日（土）

やまなし観光推進機構からの信玄公祭り甲州軍団出陣「三条夫人隊」への参加者募集案内を受けて、毎年、国際部国際企画課で本学の留学生に参加者を募っています。甲府市中心部を会場に行われる信玄公祭りは例年、武田信玄公の命日（4 月 12 日）の前の金～日曜に盛大に開催され、土曜日の夕方からは、県内各地から 1,000 名を超える軍勢が舞鶴城公園に集結し、川中島に向け出陣する様子を再現しており、その規模は世界最大級とも言われています。この全国的にも有名な祭りに、戦国武士や侍女等に扮装して参加できるとあって、留学生にとっては大変貴重な日本文化体験となります。

2019 年度は 3 名の交換留学生が参加し、中国からの留学生 2 名が侍女、フランスからの留学生が警護侍に、それぞれ扮して祭りの行列に参加しました。本格的な衣装を身に着けた留学生たちは貴重な文化体験を喜び、笑顔で行列に参加して甲府の街中を行進しました。

（2）留学生と地域住民の異文化交流イベント「こおりゅうまつり 2019」を開催：2019 年 7 月 10 日 （水）

2019 年 7 月 10 日（水）、甲府キャンパスにて、「こども と おとな と りゅうがくせい の まつり（こおりゅうまつり 2019）」を開催し、地域住民、本学学生・教職員の約 300 名が参加しました。

このイベントは地域住民の方々と本学留学生との交流を目的としたもので、昨年 9 月に甲府市が市内の大学と連携し、地域の国際化推進のため設置した「ふるさと応援寄付金制度」の支援を受け、初の開催となりました。

当日は島田眞路学長、田中健康甲府市国際交流課長の挨拶により開会となり、本学留学生による「せかいのたべもの」ブースや、各国のおもちゃで遊べる「せかいのあそび」ブース、「せかいの○×クイズ」、会場にいる留学生の母国語で留学生と話す「せかいのあいさつスタンプラリー」、また流しそうめんやスイカ割り、ヨーヨー釣りなど夏ならではのイベントも行われ、会場は大いに盛り上がりました。

「せかいのたべもの」ブースでは、フランス、イギリス、タイ、ドイツ、中国、インドネシア、ベトナム、マレーシア、ネパールの 9 カ国の留学生による計 13 種類の母国料理に加え、甲府市相川自治会の皆さんによる地域の伝統料理「やこめ」が振る舞われ、参加者は食や遊び、交流を通じ各国の文化に触れ、異文化への理解を深めました。

また、当日は本学のサマープログラムで来日中の海外交流協定校の学生 27 名も参加し、浴衣姿で日本のお祭りを体験しました。

島田学長による開会の言葉

田中課長によるご挨拶

グリーンカレーを提供するタイの学生

ナシゴレンを提供するインドネシアの学生

流しそうめん

スイカ割り

大盛況に終わりました

（３）本学甲府国際交流会館の留学生と地域住民との交流会（もちつき大会）を開催：2019 年 11 月 23 日

2019 年 11 月 23 日（土）、本学甲府国際交流会館アネックスにおいて、留学生と岩窪自治会など地域の皆さんとの交流会が開催され、本学学生・教職員も加わり約 200 名が参加しました。

この交流会は、留学生と地域の交流活動を通じて互いの信頼関係を築くとともに、食を通して異文化への理解を深めることを目的に毎年開催されているものです。

今年で 16 回目となる今回の交流会では、留学生・日本人学生からバングラデシュ・中国・フランス・ドイツ・マダガスカル・マレーシア・モンゴル・パキスタン・スリランカ・タイ・イギリスおよび日本の 12 カ国の伝統料理 28 品が提供され、参加者はお互いの料理や文化を紹介し合いながら親睦を深めました。

メインイベントである餅つきでは、自治会の皆さまによる丁寧なご指導を受け、大きな掛け声の中で留学生が餅つきを体験し、つきたてのお餅に舌鼓を打ちました。

また、当日は杉山俊之理事・副学長及び来賓の樋口雄一甲府市長からの挨拶のほか、留学生による歌と岩窪自治会による太鼓演奏が披露されるなど、とても楽しい一日となりました。

浴衣姿の参加学生

せかいの〇×クイズ

ヨーヨー釣り

各国の伝統料理が振舞われました

餅つきを体験

挨拶する杉山理事

挨拶する樋口市長

参加者による記念写真

小・中・高等学校への留学生派遣

山梨県内の小・中・高等学校より留学生の派遣依頼があった際、参加を希望する留学生を募集し派遣しています。派遣の要望は主に、国際交流・異文化交流のための授業や行事であることが多く、地域の教育機関の国際交流活動に貢献すると同時に、留学生の異文化体験や日本の教育機関見学の機会にもなっています。

本学留学生が南アルプス市立芦安小・中学校のハロウィンパーティーに参加：2019 年 10 月 30 日（水）

南アルプス市立芦安小・中学校においてハロウィンパーティーが開催され、本学の留学生が参加しました。

これは、同校主催のグローバル教育企画に本学が協力したもので、当日はスリランカ、ドイツ、マダガスカル、中国出身の留学生５名が、同校の生徒や教職員の方々と、英語を使ったゲームを通して交流を深めました。

パーティーでは生徒たちが、世界各地から日本に来ている留学生に対し、母国の文化や日本での生活について、熱心に質問をしていました。

また、生徒たちから留学生へ歌のプレゼントが贈られるなど、とても楽しいひと時となりました。

留学生が挨拶

英語を使ったゲームを楽しみました

生徒たちが留学生にインタビュー！

楽しいひと時となりました

Ⅴ.　国際交流関連データ

留学生在籍状況をはじめ、国際交流に関連する各種データをまとめて報告いたします。

国際交流センターと国際部の行事（2019 年度）

時期	行事
4 月	2 日　外国人留学生向けガイダンス・日本語プレイスメントテスト・キャンパスツアー
	4・8・10 日　G-フィロス＆英語学習サポート説明会
	5・9・11 日　G-フィロス・海外留学・新規開講科目「海外で学ぼう」ガイダンス
	6 日　信玄公祭り甲州軍団参加
	10 日　新入生向け国際交流センターガイダンス（学部別）
	11 日　前期グローバル共創学習室・G-フィロス　イングリッシュ・カフェ(12:20-13:00)開始
	12～18 日　G-フィロス連携英語科目の授業訪問・説明
	2・4・10・11・12 日　平成 31 年度 EKU　GVU 研修説明会
	17 日　G-フィロスセミナー「留学はじめの一歩」
	18 日　「春の集い」（留学生を支える会）
	19～6/7 日　前期　医学部キャンパス　英語学習相談、イングリッシュ・カフェ（毎週金曜日）
	19・26 日　G-フィロスミニイベント（スピーキング・TOEIC）
	19・26 日　医学部キャンパス「English Café すぺしゃる（カンボジアカフェ）」
	20 日　学内 TOEIC L&R IP　実施
	24 日　G-フィロスセミナー「スタートダッシュ TOEIC セミナー」
5 月	7日　グローバル共創学習室・G-フィロス全面オープン （英語・タイ語・中国語・ドイツ語・ベトナム語・マレー語・日本語のカフェと、日英語学習サポート）
	7日　前期グローバル共創学習室・G-フィロス　イングリッシュ・サポート(16:30-19:00)開始
	10 日　日本語補講開始
	10 日　ワールドカルチャーカフェ
	10 日　医学部キャンパス「English Café すぺしゃる（カンボジアデイ）」
	11 日　学内 TOEFL ITP　実施
	11～12 日　新入生合宿研修
	13 日　「TOEIC 対策講座（2 講座）」、「『総合英語』時間外学習/英語基礎復習講座（3 講座）」開始
	14・21 日　ベトナム語カフェ
	15・24・29・31 日　G-フィロスミニイベント（スピーキング・TOEIC）
	16 日　ドイツ語カフェ
	17 日　医学部キャンパス「英語スピーキング試験対策講座」（対象:　学生&教職員）
6 月	7 日　医学部キャンパス「英語プレゼンテーション講座」（対象:　学生&教職員）
	11 日　2018 年度春季語学・文化研修・海外インターンシップ報告会
	14・21 日　タイ語カフェ
	19 日　G-フィロスセミナー「英語ビジネスメールセミナー（TOEIC 長文問題にも役立つ）」
	22・23 日　ホームステイ・ホームビジット
	27 日　モンゴル語カフェ
7 月	1～22 日　日本語・日本文化短期プログラム
	5 日　モンゴル語カフェ
	6 日　留学説明会（東京）参加
	6～7 日　グローバル合宿

	10 日　イベント「こおりゅうまつり」
	13 日　富士山、富士浅間神社等　日帰りツアー
	13 日　学内 TOEIC L&R IP　 実施
	16 日　海外インターンシップマナー講座
	17 日　G-フィロスセミナー「雑談力を鍛えよう！　カジュアル英会話セミナー」
	18 日　桃狩り
	19 日　前期 G-フィロス　イングリッシュ・カフェ(12:20-13:00)＆イングリッシュ・サポート(16:30-19:00)終了
	29～8/9 日　夏休み 医学部キャンパス 英語学習相談＆イングリッシュ・カフェ（月曜・水曜・金曜開催）
8 月	5～9 日　TOEIC L&R 直前のテクニック講座①（対象: 学生）
	5～9/30 日　夏休み英語学習・留学相談＆プライベート英語レッスン（対象: 学生&教職員）
	7 日　ユニタス日本語学校（甲府本校）進学説明会
	18～9/1 日　ソンクラー大学夏季文化研修派遣
	18～9/21 日　ケンタッキー大学夏季語学・文化研修・海外インターンシップ派遣
	22～31 日　集中英語講座、スタディ・グループ、教職員向け英語講座
	25～9/22 日　グランド・ビュー大学夏季英語・文化研修・海外インターンシップ派遣
	27 日　フジ進学説明会
9 月	9～13 日　TOEIC L&R 直前のテクニック講座②（対象: 学生&教職員）
	15～20 日　バングラデシュ大学訪問
	18～19 日　実地見学旅行
	20 日　新入外国人留学生ガイダンス ・留学生向け日本語プレイスメント・テスト
	24・25 日　春季留学説明会
	24～30 日　夏季グローバル共創学習室・G-フィロス　イングリッシュ・カフェ(12:20-13:00)
	25 日　フジ進学説明会
	25・26 日　留学生チューター説明会
10 月	2 日　後期グローバル共創学習室・G-フィロス　イングリッシュ・カフェ(12:20-13:00)開始
	2～8 日　G-フィロス連携英語科目の授業訪問・説明
	2・4・7・8・10 日　留学個別相談
	7 日　留学生チューター説明会
	7 日　「TOEIC ・英語スピーキング対策講座（3 講座）」、「『総合英語』時間外学習/英語基礎復習講座（1 講座）」開始
	9 日　G-フィロスセミナー「今の力を知ろう！　TOEIC L&R 模試（E-ラーニング）」
	10 日　春季留学説明会
	11～1/31 日　後期 医学部キャンパス 英語学習相談、イングリッシュ・カフェ（毎週金曜日）
	16 日　G-フィロスミニイベント「G-フィロスを体験しよう！」
	21 日　グローバル共創学習室・G-フィロス全面オープン(英語・中国語・ドイツ語・マレー語・日本語のカフェと日英語学習サポート)
	21 日　後期グローバル共創学習室・G-フィロス　イングリッシュ・サポート(16:30-19:00)開始
	23 日　「秋のバザー」（留学生を支える会）
	24 日　防犯講話
	30 日　芦安小・中学校グローバル教育「ハロウィンパーティー」に留学生派遣

11 月	5 日　留学生のための防災教室
	7 日　G-フィロスセミナー「とっさの一言英会話」
	8～9 日　学術交流ワークショップおよび日本留学フェア（ガーナ）
	13 日　G-フィロスセミナー「ビジネスシーンで役立つ！　英語表現＆マナーセミナー」
	23 日　甲府国際交流会館地域交流もちつき大会
	24 日　日本留学フェア（インドネシア）
	25 日　2019 年度夏季語学・文化研修・海外インターンシップ報告会
	29 日　G-フィロスセミナー「かしこく時短でスコアアップ TOEIC セミナー①（Listening 編）」
12 月	6 日　G-フィロスセミナー「かしこく時短でスコアアップ TOEIC セミナー②（Reading 編）」
	6 日　交換留学説明会・帰国報告会
	7 日　学内 TOEIC L&R IP　実施
	9・11・17 日　ドイツ語カフェ
	9・19 日　中国語カフェ
	10 日　G-フィロスイベント「ホリデーパーティー」
	12・17・19 日　マレー語カフェ
	13 日　学長主催留学生懇談会
	14 日　学内 TOEIC S&W IP　実施
	20 日　山梨県防犯パトロールに留学生派遣
1 月	8 日　甲府警察署による 110 番の日に留学生派遣
	9 日　マレー語カフェ
	10・15 日　中国語カフェ
	11 日　学内 TOEFL ITP　実施
	14 日　海外インターンシップマナー講座
	16 日　ドイツ語カフェ
	16 日　後期 G-フィロス　イングリッシュ・カフェ(12:20-13:00)＆イングリッシュ・サポート(16:30-19:00)　終了
2 月	6・7 日　G-フィロスセミナー「TOEIC L&R ハードコアセミナー」
	8 日　学内 TOEIC L&R IP　実施
	9～3/8 日　レスター大学春季語学・文化研修派遣
	14・21・28 日　春休み　医学部キャンパス　英語スピーキング講座・セミナー＆フリートーク
	16～3/15 日　ノーザンアイオワ大学春季語学・文化研修派遣
	23～3/22 日　ブリティッシュ・コロンビア大学春季語学・文化研修派遣

2019 年度留学生在籍状況(国別)　基準日: 5 月 1 日

No.	国・地域	大学院生	学部生	研究生	特別聴講学生等	合計
1	中国　China	63	29	17	5	114
2	マレーシア　Malaysia	2	22		0	24
3	ベトナム　Vietnam	8	5		0	13
4	ネパール　Nepal	10	0		0	10
5	タイ　Thailand	6	0		2	8
6	バングラデシュ　Bangladesh	5	0		0	5
7	インドネシア　Indonesia	4	0		0	4
8	韓国　Korea	2	1		0	3
9	ドイツ　Germany	0	0		3	3
10	イギリス　Great Britain	0	0		2	2
11	ハンガリー　Hungary	1	0		0	1
12	モンゴル Mongolia	0	1		0	1
13	台湾　Taiwan	0	1		0	1
14	インド　India	1	0		0	1
15	スリランカ　Sri Lanka	1	0		0	1
16	パキスタン Pakistan	1	0		0	1
17	アメリカ　USA	0	0		1	1
18	フランス　France	0	0		1	1
	計	104	59	17	14	194

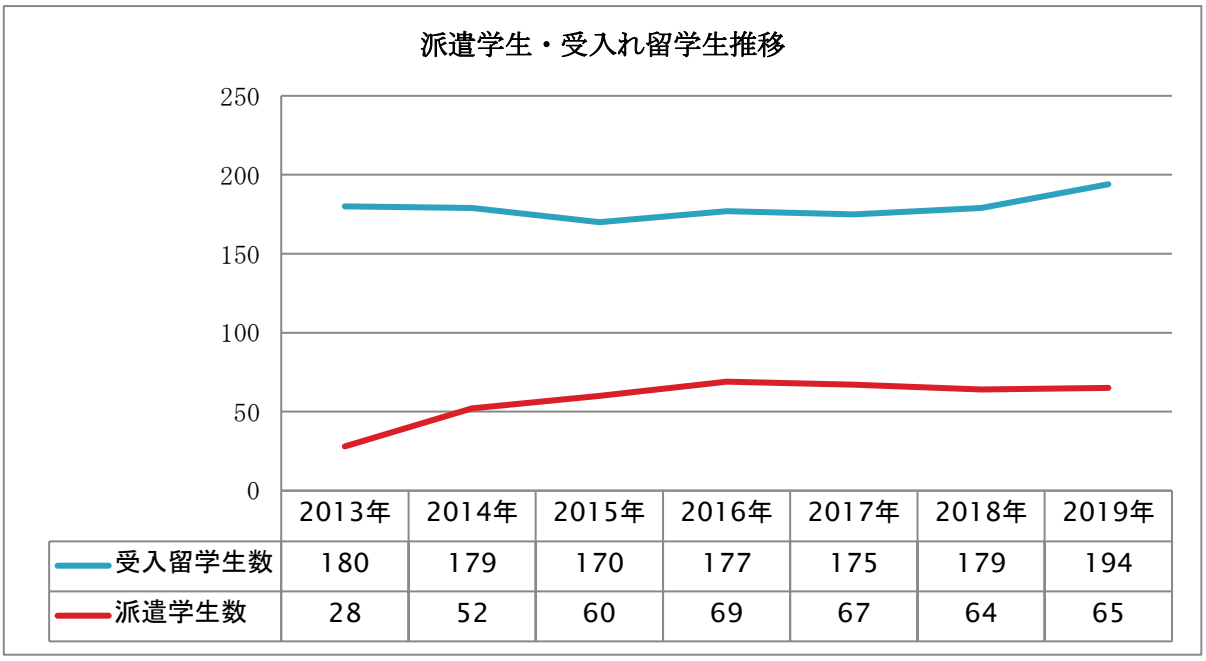
受入留学生の推移(過去 4 年間)　　基準日:5 月 1 日

	2016 年度		2017 年度		2018 年度		2019 年度	
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院
国費留学生	0	17	0	16	0	18	0	18
政府派遣留学生	24	1	26	0	22	0	16	0
私費留学生	55	80	54	79	58	81	71	89
合計	170		175		179		194	

派遣留学生の推移(過去 4 年間)

	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
交換留学	3	4	5	4
夏季・春季海外研修	66	63	59	61
(海外インターンシップ参加者)	(37)	(36)	(34)	28
合計	69	67	64	65

＜図：派遣学生・受け入れ留学生推移＞



派遣プログラム

プログラム名	留学先	実地時期	期間	募集人数	対象学部	備考
英語・文化研修	カナダ University of British Columbia	2020 年 2 月 23 日（日）～3 月 22 日（日）	4 週間	16 名	全学	English for Global Citizens の英語講習に参加し、カナダ人家庭でのホームステイを通して英語に親しむ研修プログラムです。
	英国 University of Leicester	2020 年 2 月 9 日（日）～ 3 月 8 日（日）	4 週間	15 名	全学	英語学習はもちろん、英国文化を学ぶため、現地学生との交流や文化体験学習を行うプログラムです。英国人家庭にホームステイをします。
中国語・中国文化研修 海外インターンシップ	中国 杭州電子科技大学 （インターンシップ先：テルモ杭州工場） （※新型コロナウイルス感染症により中止）	2020 年 3 月 8 日（日）～ 3 月 22 日（日）	2 週間	16 名	全学	グローバル人材を目指すための早期キャリア教育も兼ねた研修プログラムです。前半の1週間は中国語学習に加え、現地学生との交流や文化体験を行います。後半の1週間は現地の日系企業でインターンシップを行います。
英語・文化研修 海外インターンシップ	米国 University of Kentucky （インターンシップ先：Toyotetsu America/ Lafayette High School　ほか）	2019 年 8 月 18 日（日）～9 月 21 日(土)	5 週間	10～15 名	全学	グローバル人材を目指すための早期キャリア教育も兼ねた研修プログラムです。4週間の語学研修中、午前中はレッスン、午後はフィールドワークとして現地大学でさまざまな交流イベントに参加します。語学研修中・研修後の計 5 日間は現地企業、または教育機関でジョブ・シャドイング（インターンシップ）を行います。
	米国 Grand View University （インターンシップ先：株式会社ブリヂストンデモイン事業所ほか）	2019 年 8 月 25 日（日）～9 月 22 日（日）	4 週間	10～15 名	全学	アイオワ州のグランド・ビュー大学における英語研修と、現地の企業でのジョブ・シャドイングに参加します。ジョブ・シャドイングでは、現地の企業においてそれぞれの専門に合った業務内容を身近で見学することができます。

	米国 University of Northern Iowa (インターンシップ先:株式会社ブリヂストンデモイン事業所ほか)	2020 年 2 月 16 日(日) ～3 月 15 日(日)	4 週間	4 名～	全学	ノーザンアイオワ大学の The Culture and Intensive English Program (CIEP)にて語学・文化研修に参加します。アメリカ人家庭へのホームステイも含まれており、また、最終週には、各学生の専門分野に合った現地企業・機関にてジョブ・シャドイングを行います。
文化研修	タイ Prince of Songkla University	2019 年 8 月 18 日(日) ～9 月 1 日(日)	2 週間	3 名～	全学	世界各国からの参加者と、タイ語やタイ文化(タイ舞踊、伝統医学、タイの歴史、タイの環境や生活など)の授業を受けます。現地学生との交流や研修旅行も組み込まれており、各種体験を通して、タイについて深く学ぶことができます。研修中は、主に英語でのコミュニケーションとなります。

奨学金受給者数(私費外国人留学生)

	2016 年度		2017 年度		2018 年度		2019 年度	
	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院
学習奨励費	2	5	2	5	3	8	6	24
(財) ロータリー米山記念奨学会	1	1	1	1	1	2	1	2
朝鮮奨学会				1	2	3		1
(財)共立国際奨学財団		1						
日揮・実吉奨学会		1		1	1			1
山梨大学大学院博士課程私費外国人留学生支援金								5
甲府市ふるさと応援補助金による大学院博士課程私費外国人留学生支援金								8

新規協定締結校(2019 年度)

	国名・地域名 Country/Region	大学等名 Institution	締結年月日 Agreement date
大学間	フィリピン共和国 Republic of the Philippines	イサベラ州立大学 Isabela State University	2019.6.13
大学間	中 国 China	五邑大学 Wuyi University	2019.12.25
工学部	インドネシア共和国 Republic of Indonesia	パジャジャラン大学数学自然科学部 Faculty of Mathematics and Natural Sciences, Universitas Padjadjara	2019.7.19
工学部	マレーシア Malaysia	マレーシア・ペルリス大学 Universiti Malaysia Perlis Perlis, Malaysia	2020.2.5
生命環境学部	ベトナム 社会主義共和国 Socialist Republic of Viet Nam	ベトナム国家大学ホーチミン市校 国際大学バイオテクノロジー学部 School of Biotechnology International University Vietnam National University of HCM City	2019.7.26

国際交流センター	アメリカ合衆国 United States of America	ケンタッキー大学 ESL センター （CESL） Center for English as a Second Language, College of Arts and Sciences, University of Kentucky	2019.5.23

JSPS 国際交流事業申請状況

	2016 年度		2017 年度		2018 年度		2019 年度	
	申請数	採択数	申請数	採択数	申請数	採択数	申請数	採択数
外国人特別研究員(一般)	3	0	5	0	7	0	13	1
外国人特別研究員（欧米短期）	1	1			1	0		
外国人招へい研究者（長期）	1	0			2	0		
外国人招へい研究者（短期）	1	0	1	0	1	0		
外国人招へい研究者（短期）第二回	2	1						
研究拠点形成事業　A			1	0				
国際共同研究事業							2	1
二国間交流事業（９月）	5	1	3	1	6	1	5	0
二国間交流事業（２月）								
論文博士号取得希望者支援			0	0				

JSPS 研究者養成事業申請状況

	2016 年度		2017 年度		2018 年度		2019 年度	
	申請数	採択数	申請数	採択数	申請数	採択数	申請数	採択数
海外特別研究員	2	1	1	0	1	0		
海外特別研究員（ＲＲＡ）								
若手研究者海外挑戦							3	0
日本学術振興会賞							1	0
日本学術振興会育志賞							2	0

その他国際交流事業申請状況

	2016 年度		2017 年度		2018 年度		2019 年度	
	申請数	採択数	申請数	採択数	申請数	採択数	申請数	採択数
さくらサイエンス	1	1	2	1	2	2	2	2
JASSO（短期派遣）	1		1	1	1	1	1	1
JASSO（短期受入）			1		1	0	2	0
JASSO（双方向）	1		1		1	0	2	0